

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 現代文B | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|----|----|------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 筑摩書房『現B337 精選現代文B 改訂版』

副教材等 数研出版『現代文記述講座』／京都書房『論理・文学長文問題集 基本編』

| | |
|-------------|---|
| 学習目標 | <p>1. 近代以降の様々な文章を読む能力を高める。</p> <p>2. 様々な文章を読むことで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。</p> <p>3. 進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> |
| 授業の進め方,学習方法 | <p>①小説については、舞台設定・構成・文体の特徴をつかみ、登場人物の心理の変化を読み取り、人生についての考えを深める。</p> <p>②評論では、段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。</p> <p>③詩・短歌・俳句などの韻文については、音読や朗読、唱和を通して詩の韻律に親しみ、詩の情景を読み取る。文体や修辞など表現上の特色を捉え、作者の感動の焦点を明らかにしながら作品を鑑賞する。</p> <p>④単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。</p> |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|---------------------------------------|--|---|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1 学期 | 評論一 「近代の成立——遠近法」 『『自然を守る』ということ』 | <ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開を逐い、具体例からどのような事実が明らかになっていくか理解する。 ・比喩を把握し、人間が置かれている状況について自分なりのことばで表現する。 ・作品の時代状況や社会状況をまとめ、その背景を考えて読み味わう。 ・作者について調べ、作者の考えをまとめてみる。 ・入試問題を活用して、評論文の読解演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容に関心を持っているか。 ・筆者の主張を踏まえて、人間・自然について考えを深めることができるか。 ・抽象的な論旨において、具体例を想定しながら読むことができているか。 ・作品の背景を調べることを通して、作品の読みを深めることができるか。 |
| | 評論三「陰影礼賛」 「無常ということ」 「小説とは何か」 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者によって定義される用語の内容を文脈に即して理解する。 ・人間の生や文学のあるべき姿についての筆者の考えを理解し、それに対して自分の考えを深めていく姿勢を養う。 ・情景を読み解き、自らの表現に役立てる。 ・入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容に関心を持っているか。 ・表現上の特色を読み味わい、自らの表現に役立てることができるか。 ・具体例がどのように主張を補強し、論証する役に立っているかを理解し、読みを深めることができるか。 ・基本的な用語や時代背景、関係資料を調べ、知識を深めることができるか。 |
| 2 学期 | 小説二「急須」 評論四「貨幣共同体」 | <ul style="list-style-type: none"> ・人物の心情や情景描写の妙を味わう鑑賞力を身につける。 ・筆者によって定義される用語の内容を文脈に即して理解する。 ・人間の生や文学のあるべき姿についての筆者の考えを理解し、それに対して自分の考えを深めていく姿勢を養う。 ・情景を読み解き、自らの表現に役立てる。 ・入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容に関心を持っているか。 ・表現上の特色を読み味わい、自らの表現に役立てることができるか。 ・具体例がどのように主張を補強し、論証する役に立っているかを理解し、読みを深めることができるか。 ・基本的な用語や時代背景、関係資料を調べ、知識を深めることができるか。 |
| | 評論五 「リスク社会とその希望」 共通テスト試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の論理展開を確認することで筆者の問題意識に気づく。 ・人間・社会のありように対して、批判的にそれを読み解くことを学び、意見や主張を伝え合う方法について考察する。 ・情景をとらえ、物語を味わうとともに、一人称の語りや、幻想文学的な表現の特色について考察する。 ・日常の何気ない行為の中に意味の連関を見出し、神話や伝説に潜む人間の考えの原型について考察する。 ・入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人物の心情や情景を把握して朗読することができるか。 ・教材を通読して、文章の展開や要旨を的確にまとめることができるか。 ・既習の論考と読み比べることで、社会のあり方や人間の生き方について考えを深め、具体化する方策について考察することができるか。 ・語句の意味・用法を理解しているか。 |
| 3 学期 | 共通テスト試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けて、評論・小説・随筆等、さまざまな長文を読むことで、読解力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいるか。 ・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深めることができるか。 ・人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深め、記述力を伸ばすことができるか。 |
| | 記述試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・記述試験に向けて、評論・小説・随筆等、さまざまな長文を読むことで、読解力と記述力を養う。 | |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | <p>〈授業時の反応〉教材の内容に関心を持っているか。範読・音読・指名読みの態度は積極的かなど。</p> <p>〈授業時の活動〉全文を正しく音読できるか。朗読を聞いて、文章の展開や要旨を的確にとらえることができるか。</p> <p>班ごと話し合う際、意見をまとめて発表することができるかなど。</p> <p>〈プリント・ノートへの記入・課題提出・小テスト・定期考査・課題考査〉以上を総合的に判断して評価する。</p> |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 現代文B | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 筑摩書房『現B337 精選現代文B 改訂版』

副教材等 数研出版『現代文記述講座』／京都書房『論理・文学長文問題集 基本編』

学習目標
 1. 近代以降の様々な文章を読む能力を高める。
 2. 様々な文章を読むことで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
 3. 進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

授業の進め方,学習方法
 ①小説については、舞台設定・構成・文体の特徴をつかみ、登場人物の心理の変化を読み取り、人生についての考えを深める。
 ②評論では、段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。
 ③詩・短歌・俳句などの韻文については、音読や朗読、唱和を通して詩の韻律に親しみ、詩の情景を読み取る。文体や修辞など表現上の特色を捉え、作者の感動の焦点を明らかにしながら作品を鑑賞する。
 ④単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|---------------------------------------|---|---|
| 1 学期 | 評論一 「近代の成立——遠近法」 『『自然を守る』ということ』 | <ul style="list-style-type: none"> 論理の展開を逐い、具体例からどのような事実が明らかになっていくか理解する。 比喩を把握し、人間が置かれている状況について自分なりのことばで表現する。 作品の時代状況や社会状況をまとめ、その背景を考えて読み味わう。 作者について調べ、作者の考えをまとめてみる。 入試問題を活用して、評論文の読解演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 教材の内容に関心を持っているか。 筆者の主張を踏まえて、人間・自然について考えを深めることができるか。 抽象的な論旨において、具体例を想定しながら読むことができているか。 作品の背景を調べることを通して、作品の読みを深めることができるか。 |
| | 評論三「陰影礼賛」 「無常ということ」 「小説とは何か」 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者によって定義される用語の内容を文脈に即して理解する。 人間の生や文学のあるべき姿についての筆者の考えを理解し、それに対して自分の考えを深めていく姿勢を養う。 情景を読み解き、自らの表現に役立てる。 入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 教材の内容に関心を持っているか。 表現上の特色を読み味わい、自らの表現に役立てることができるか。 具体例がどのように主張を補強し、論証する役に立っているかを理解し、読みを深めることができるか。 基本的な用語や時代背景、関係資料を調べ、知識を深めることができるか。 |
| 2 学期 | 小説二「急須」 評論四「貨幣共同体」 | <ul style="list-style-type: none"> 人物の心情や情景描写の妙を味わう鑑賞力を身につける。 筆者によって定義される用語の内容を文脈に即して理解する。 人間の生や文学のあるべき姿についての筆者の考えを理解し、それに対して自分の考えを深めていく姿勢を養う。 情景を読み解き、自らの表現に役立てる。 入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 教材の内容に関心を持っているか。 表現上の特色を読み味わい、自らの表現に役立てることができるか。 具体例がどのように主張を補強し、論証する役に立っているかを理解し、読みを深めることができるか。 基本的な用語や時代背景、関係資料を調べ、知識を深めることができるか。 |
| | 評論五 「リスク社会とその希望」 共通テスト試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の論理展開を確認することで筆者の問題意識に気づく。 人間・社会のありように対して、批判的にそれを読み解くことを学び、意見や主張を伝え合う方法について考察する。 情景をとらえ、物語を味わうとともに、一人称の語りや、幻想文学的な表現の特色について考察する。 日常の何気ない行為の中に意味の連関を見出し、神話や伝説に潜む人間の考えの原型について考察する。 入試問題を活用して、長文読解問題演習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 人物の心情や情景を把握して朗読することができるか。 教材を通読して、文章の展開や要旨を的確にまとめることができるか。 既習の論考と読み比べることで、社会のあり方や人間の生き方について考えを深め、具体化する方策について考察することができるか。 語句の意味・用法を理解しているか。 |
| 3 学期 | 共通テスト試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> 共通テストに向けて、評論・小説・随筆等、さまざまな長文を読むことで、読解力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいるか。 人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深めることができるか。 人間・社会・自然・芸術などについての考え方を学び、読解を深め、記述力を伸ばすことができるか。 |
| | 記述試験問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> 記述試験に向けて、評論・小説・随筆等、さまざまな長文を読むことで、読解力と記述力を養う。 | |

成績評価方法
 〈授業時の反応〉教材の内容に関心を持っているか。範読・音読・指名読みの態度は積極的かなど。
 〈授業時の活動〉全文を正しく音読できるか。朗読を聞いて、文章の展開や要旨を的確にとらえることができるか。
 班ごと話し合う際、意見をまとめて発表することができるかなど。
 〈プリント・ノートへの記入・課題提出・小テスト・定期考査・課題考査〉以上を総合的に判断して評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 古典B | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 第一学習社(古B350)『古典B 古文編』／第一学習社(古B350)『古典B 漢文編』

副教材等 数研出版『体系古典文法』／京都書房『漢文学習必携 三訂版』／桐原書店『古文単語315』／ランズ『古文3』／尚文出版『完成 漢文』

学習目標 1. 様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高め、古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。
2. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。
3. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。

授業の進め方、学習方法 講義形式、問題演習

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|---|---|--|
| 1学期 | 『発心集』 叡実、路頭の病者を憐れむこと 『枕草子』 二月つごもりごろに 老子「小国寡民」 韓非子「侵官之害」 | 1 仏教説話の特色を理解する。 2 作中人物の人間像や心情を読み取り、当時の価値観に触れる。 3 和歌の読解と鑑賞のしかたを身につける。 4 『無名抄』の歌論書としての文学史的な位置を理解する。 5 儒家との相違点を整理しながら、道家思想の概要をつかむ。 6 韓非子の政治観を読み取って儒家との対立点を明らかにし、法家思想の今日的意義を考える。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・儒家との相違点を整理しながら、道家思想、法家思想の概要をつかめたか。 |
| | 『源氏物語』須磨 漢詩 絶句・律詩 | 1 『源氏物語』の内容を深く理解するために、様々な情景や人物の心理を再構成し、作者の意図を正確かつ豊かに受容できる力を養う。 2 敬語を軸に、登場人物の行動や心情を的確に読み取る力をつける。 3 漢詩の基礎を思い出しつつ、情景を丁寧に読み取りながら、漢詩の世界を味わい、楽しむ。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 ・漢詩の基本的事項を理解しているか。 |
| 2学期 | 『蜻蛉日記』 うつろひたる菊 『紫式部日記』 土御門邸の秋 | 1 日記文学としての『蜻蛉日記』の特色を理解し、作者の深い自己凝視の姿勢や心情を理解する。 2 地の文、会話文、和歌のつながりを読み取る。 3 秋の土御門邸の情景がどのように描写されているかをとらえ、作者の繊細な感覚に触れる。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 |
| | 『和泉式部日記』 夢よりもはかなき世の中 史伝「荊軻」 | 1 それぞれの場面での登場人物の心理や自然の描写を丁寧に読み取り、作品世界を読み味わう。 2 平安時代の宮中の様子や女房の生活について理解し、作者の鋭い感性を共感をもって味わう。 3 作品の背景となる作者と社会とのかかわりを意識しながら、作者の生き方や人生観に触れる。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 |
| 3学期 | 共通テスト試験問題演習 | 既習事項をふまえ、様々な古典文学を読解する実践力を養う。 | 既習事項をふまえ、様々な古典文学を読解する実践力を養えたか。 |

成績評価方法 定期考査
テスト、課題の提出状況
小テスト

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 古典B | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 第一学習社(古B350)『古典B 古文編』／第一学習社(古B350)『古典B 漢文編』

副教材等 数研出版『体系古典文法』／京都書房『漢文学習必携 三訂版』／桐原書店『古文単語315』／ランズ『古文3』／尚文出版『完成 漢文』

学習目標 1. 様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高め、古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。
2. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。
3. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。

授業の進め方、学習方法 講義形式、問題演習

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|---|---|--|
| 1学期 | 『発心集』 叡実、路頭の病者を憐れむこと 『枕草子』 二月つごもりごろに 老子「小国寡民」 韓非子「侵官之害」 | 1 仏教説話の特色を理解する。 2 作中人物の人間像や心情を読み取り、当時の価値観に触れる。 3 和歌の読解と鑑賞のしかたを身につける。 4 『無名抄』の歌論書としての文学史的な位置を理解する。 5 儒家との相違点を整理しながら、道家思想の概要をつかむ。 6 韓非子の政治観を読み取って儒家との対立点を明らかにし、法家思想の今日的意義を考える。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・儒家との相違点を整理しながら、道家思想、法家思想の概要をつかめたか。 |
| | 『源氏物語』須磨 漢詩 絶句・律詩 | 1 『源氏物語』の内容を深く理解するために、様々な情景や人物の心理を再構成し、作者の意図を正確かつ豊かに受容できる力を養う。 2 敬語を軸に、登場人物の行動や心情を的確に読み取る力をつける。 3 漢詩の基礎を思い出しつつ、情景を丁寧に読み取りながら、漢詩の世界を味わい、楽しむ。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 ・漢詩の基本的事項を理解しているか。 |
| 2学期 | 『蜻蛉日記』 うつろひたる菊 『紫式部日記』 土御門邸の秋 | 1 日記文学としての『蜻蛉日記』の特色を理解し、作者の深い自己凝視の姿勢や心情を理解する。 2 地の文、会話文、和歌のつながりを読み取る。 3 秋の土御門邸の情景がどのように描写されているかをとらえ、作者の繊細な感覚に触れる。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 |
| | 『和泉式部日記』 夢よりもはかなき世の中 史伝「荊軻」 | 1 それぞれの場面での登場人物の心理や自然の描写を丁寧に読み取り、作品世界を読み味わう。 2 平安時代の宮中の様子や女房の生活について理解し、作者の鋭い感性を共感をもって味わう。 3 作品の背景となる作者と社会とのかかわりを意識しながら、作者の生き方や人生観に触れる。 | ・教材に興味をもって学習に取り組んだか。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳したか。 ・地の文、会話文、和歌のつながりを把握し、文章のリズムを味わったか。 ・敬語の意味と用法について理解しているか。 ・平安朝女流文学の流れを理解し、文学史的な位置づけについて理解を深めているか。 |
| 3学期 | 共通テスト試験問題演習 | 既習事項をふまえ、様々な古典文学を読解する実践力を養う。 | 既習事項をふまえ、様々な古典文学を読解する実践力を養えたか。 |

成績評価方法 定期考査
テスト、課題の提出状況
小テスト

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 世界史B(文) | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|------------|
| 使用教科書 | 世界史B(東京書籍) |
|-------|------------|

| | |
|------|------------------------|
| 副教材等 | グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社) |
|------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。 文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。 世界史についての資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につける。 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。 |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| 授業の進め方,学習方法 | 重要語句を暗記する学習に終始するのではなく、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解したうえでそれぞれの事象の位置づけを行うことができるような学習が望ましい。そのために、まずはしっかりと教科書の通読を行い、近代史の大きな流れを理解してください。 |
|-------------|--|

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|--|--|---|
| 1 学期 | 第3編 一体化する世界 第14章 近世のヨーロッパ 第15章 欧米における工業化と国民国家の形成 | ・主権国家体制の成立、宗教改革と対抗宗教改革の動きを、当時の国際関係の中に位置付けて理解し、ピューリタン革命・名誉革命を通じてイギリスが立憲王政を確立した過程、フランス絶対王政の展開を考察する。 ・プロイセンの強国化やロシア台頭の過程とその影響について、当時の国際関係、近世ヨーロッパの社会の変容、科学革命、主権国家の理論・イギリス経験論・大陸合理論・啓蒙思想などの諸思想について理解する。 ・大西洋三角貿易と各地への影響、オランダの植民地経営への転換、北米やインドにおける英仏の植民地抗争について理解する。 ・産業革命の背景や展開、産業革命によって新たに発生した諸問題、産業革命の波及によって成立した世界秩序について、広い視点から理解する。 | ・15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を築き上げていった過程に関する基本的な知識を身につけている。 ・イギリス、フランス、プロイセンとオーストリアの抗争など、17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向に関する基本的な知識を身につけている。 ・産業革命とその後成立した資本主義体制が世界市場に与えた影響などに関する基本的な知識を身につけている。 |
| | 第15章 欧米における工業化と国民国家の形成 第4編 地球世界の形成と課題 第16章 産業資本主義の発展と帝国主義 | ・アメリカ合衆国独立の過程と独立後の領土拡大、ラテンアメリカ諸国の独立、フランス革命の背景、革命の展開、ナポレオン戦争の展開を理解する。 ・フランス革命を通じて国民国家の原則がうたがわれ、ナポレオンの大陸制圧によってヨーロッパにナショナリズムが拡大したことを理解する。 ・ウィーン体制の成立とその性質、クリミア戦争と東方問題の展開、イギリスやフランスの国民国家体制の発展について理解する。 ・イタリア・ドイツの統一の過程、統一後の動向、ロシアの国内改革、オーストリア、北欧など大陸諸国の動向について理解する。 ・南北戦争の背景と結果、南北戦争後の合衆国の社会経済の発展、独立後のラテンアメリカ社会の特徴や問題について理解する。 | ・アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響などに関する基本的な知識を身につけている。 ・フランスの革命運動を中心に、ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパ諸国の自由主義や民主主義政治改革の動向に関する基本的な知識を身につけている。 ・ヨーロッパ諸国の国民国家の形成期についての基本的な知識を身につけている。 ・アメリカ合衆国の西部への領土拡張や、南北戦争以後、世界一の工業国として発展したことに関する基本的な知識を身につけている。 |
| 2 学期 | 第4編 地球世界の形成と課題 第16章 産業資本主義の発展と帝国主義 第17章 アジア諸地域の変革運動 | ・帝国主義の背景や特質について、人口移動、社会生活の変容、新たな思想・文化など、様々な側面から理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアフリカ分割や合衆国のカリブ海政策など、欧米列強による世界分割の様相について理解する。 ・フッハーブ派の運動やバハイ・イスラーム主義を中心とする、イスラーム世界における改革運動、オスマン帝国の改革の動向について、西欧化、民族意識の高揚など諸側面を意識しながら理解する。 ・イギリスのインド支配の拡大とその特徴、イギリス支配へのインドの抵抗について理解する。東南アジア各地とオセアニアの植民地化と植民地経営の特徴、東南アジアでの民族運動の動向について理解する。 | ・オスマン帝国の動揺とタンジマート改革の挫折、アラブの民族運動、イラン・アフガニスタンの対応に関する基本的な知識を身につけている。 ・帝国主義の特色と、帝国主義時代における欧米諸国の国内問題に関する基本的な知識を身につけている。 |
| | 第17章 アジア諸地域の変革運動 第18章 世界戦争の時代 | ・アヘン戦争から辛亥革命にいたる経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理し、日本の勢力拡大や朝鮮半島の植民地化など、東アジアの国際秩序の変動について理解する。 ・第一次世界大戦の背景としての国際的な対立関係、大戦の性格、大戦終結にいたる経緯、ロシア革命の展開を理解する。 ・ヴェルサイユ・ワシントン両体制の成立と特徴について理解し、両体制の限界について考察します。大戦後のアメリカ合衆国の社会・経済の繁栄、ヨーロッパ各国の動向、その違いを理解する。 ・トルコ共和国などを中心に、西アジア地域の国家形成の動き、インドの独立運動の展開を、ヒンドゥー・ムスリム両教徒の関係を考慮しながら理解する。 | ・中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。 ・帝国主義諸国間の覇権争いとしての第一次世界大戦の性格、経過と影響に関する基本的な知識を身につけている。 |
| 3 学期 | 第18章 世界戦争の時代 第19章 戦後世界秩序の形成 | ・世界恐慌の背景と各地の対応、ナチスの政治の特徴、ファシズム勢力の台頭、日本の中国侵略と、中国の対応について理解する。 ・大戦勃発直前の状況、緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯、連合国の主導による戦後処理の内容について理解する。 ・東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況、第三勢力形成の展開とその現代史的意義を理解する。 ・アジア・アフリカ各地における国家の独立とその後の動向を理解する。冷戦の緩和、社会主義陣営内での対立、アメリカの地位低下とアジア諸国の経済成長、南北問題や南南問題、国際経済体制の転換など、多極化の始まる世界の諸相について理解する。 | ・第二次世界大戦におけるヨーロッパから太平洋にいたる戦場の広域化、強制収容所の建設や核兵器の使用といった残虐行為など、戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。 ・国際連合を柱とした戦後の国際秩序、ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立に関する基本的な知識を身につけている。 ・米ソの軍縮条約や西ドイツの東方外交などによる緊張緩和の進展、EUやNAFTAなど先進経済地域の統合化の動きに関する基本的な知識を身につけている。 ・発展途上国間の格差拡大やアラブ世界の分裂、強権支配の後退や民族紛争の多発など、第三世界内部の変化に関する基本的な知識を身につけている。 |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | 定期考査・課題の提出状況・出席状況・授業態度を勘案して、総合的に評価を行う。 |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 世界史B(理) | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|------------|
| 使用教科書 | 世界史B(東京書籍) |
|-------|------------|

| | |
|------|------------------------|
| 副教材等 | グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社) |
|------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。 文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。 世界史についての資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につける。 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。 |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| 授業の進め方,学習方法 | 重要語句を暗記する学習に終始するのではなく、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解したうえでそれぞれの事象の位置づけを行うことができるような学習が望ましい。そのために、まずはしっかりと教科書の通読を行い、近代史の大きな流れを理解してください。 |
|-------------|--|

| 学習計画 | | | |
|------|--|--|--|
|------|--|--|--|

| 学期 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|--|--|---|
| 1学期 | 第3編 一体化する世界 第14章 近世のヨーロッパ 第15章 欧米における工業化と国民国家の形成 | ・主権国家体制の成立、宗教改革と対抗宗教改革の動きを、当時の国際関係の中に位置付けて理解し、ヒューリタン革命・名誉革命を通じてイギリスが立憲王政を確立した過程、フランス絶対王政の展開を考察する。 ・プロイセンの強国化やロシア台頭の過程とその影響について、当時の国際関係、近世ヨーロッパの社会の変容、科学革命、主権国家の理論・イギリス経験論・大陸合理論・啓蒙思想などの諸思想について理解する。 ・大西洋三角貿易と各地への影響、オランダの植民地経営への転換、北米やインドにおける英仏の植民地抗争について理解する。 ・産業革命の背景や展開、産業革命によって新たに発生した諸問題、産業革命の波及によって成立した世界秩序について、広い視点から理解する。 | ・15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を築き上げていった過程に関する基本的な知識を身につけている。 ・イギリス、フランス、プロイセンとオーストリアの抗争など、17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向に関する基本的な知識を身につけている。 ・産業革命とその後成立した資本主義体制が世界市場に与えた影響などに関する基本的な知識を身につけている。 |
| | 第15章 欧米における工業化と国民国家の形成 第4編 地球世界の形成と課題 第16章 産業資本主義の発展と帝国主義 | ・アメリカ合衆国独立の過程と独立後の領土拡大、ラテンアメリカ諸国の独立、フランス革命の背景、革命の展開、ナポレオン戦争の展開を理解する。 ・フランス革命を通じて国民国家の原則がうたがわれ、ナポレオンの大陸制圧によってヨーロッパにナショナリズムが拡大したことを理解する。 ・ウィーン体制の成立とその性質、クリミア戦争と東方問題の展開、イギリスやフランスの国民国家体制の発展について理解する。 ・イタリア・ドイツの統一の過程、統一後の動向、ロシアの国内改革、オーストリア、北欧など大陸諸国の動向について理解する。 ・南北戦争の背景と結果、南北戦争後の合衆国の社会経済の発展、独立後のラテンアメリカ社会の特徴や問題について理解する。 | ・アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響などに関する基本的な知識を身につけている。 ・フランスの革命運動を中心に、ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパ諸国の自由主義や民主主義政治改革の動向に関する基本的な知識を身につけている。 ・ヨーロッパ諸国の国民国家の形成期についての基本的な知識を身につけている。 ・アメリカ合衆国の西部への領土拡張や、南北戦争以後、世界一の工業国として発展したことに関する基本的な知識を身につけている。 |
| 2学期 | 第4編 地球世界の形成と課題 第16章 産業資本主義の発展と帝国主義 第17章 アジア諸地域の変革運動 | ・帝国主義の背景や特質について、人口移動、社会生活の変容、新たな思想・文化など、様々な側面から理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアフリカ分割や合衆国のカリブ海政策など、欧米列強による世界分割の様相について理解する。 ・ワッハブ派の運動やバハイ・イスラーム主義を中心とする、イスラーム世界における改革運動、オスマン帝国の改革の動向について、西欧化、民族意識の高揚など諸側面を意識しながら理解する。 ・イギリスのインド支配の拡大とその特徴、イギリス支配へのインドの抵抗について理解する。東南アジア各地とオセアニアの植民地化と植民地経営の特徴、東南アジアでの民族運動の動向について理解する。 | ・オスマン帝国の動揺とタンジマート改革の挫折、アラブの民族運動、イラン・アフガニスタンの対応に関する基本的な知識を身につけている。 ・帝国主義の特色と、帝国主義時代における欧米諸国の国内問題に関する基本的な知識を身につけている。 |
| | 第17章 アジア諸地域の変革運動 第18章 世界戦争の時代 | ・アヘン戦争から辛亥革命にいたる経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理し、日本の勢力拡大や朝鮮半島の植民地化など、東アジアの国際秩序の変動について理解する。 ・第一次世界大戦の背景としての国際的な対立関係、大戦の性格、大戦終結にいたる経緯、ロシア革命の展開を理解する。 ・ヴェルサイユ・ワシントン両体制の成立と特徴について理解し、両体制の限界について考察します。大戦後のアメリカ合衆国の社会・経済の繁栄、ヨーロッパ各国の動向、その違いを理解する。 ・トルコ共和国などを中心に、西アジア地域の国家形成の動き、インドの独立運動の展開を、ヒンドゥー・ムスリム両教徒の関係を考慮しながら理解する。 | ・中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。 ・帝国主義諸国間の覇権争いとしての第一次世界大戦の性格、経過と影響に関する基本的な知識を身につけている。 |
| 3学期 | 第18章 世界戦争の時代 第19章 戦後世界秩序の形成 | ・世界恐慌の背景と各地の対応、ナチスの政治の特徴、ファシズム勢力の台頭、日本の中国侵略と、中国の対応について理解する。 ・大戦勃発直前の状況、緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯、連合国の主導による戦後処理の内容について理解する。 ・東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況、第三勢力形成の展開とその現代史的意義を理解する。 ・アジア・アフリカ各地における国家の独立とその後の動向を理解する。冷戦の緩和、社会主義陣営内での対立、アメリカの地位低下とアジア諸国の経済成長、南北問題や南南問題、国際経済体制の転換など、多極化の始まる世界の諸相について理解する。 | ・第二次世界大戦におけるヨーロッパから太平洋にいたる戦場の広域化、強制収容所の建設や核兵器の使用といった残虐行為など、戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。 ・国際連合を柱とした戦後の国際秩序、ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立に関する基本的な知識を身につけている。 ・米ソの軍縮条約や西ドイツの東方外交などによる緊張緩和の進展、EUやNAFTAなど先進経済地域の統合化の動きに関する基本的な知識を身につけている。 ・発展途上国間の格差拡大やアラブ世界の分裂、強権支配の後退や民族紛争の多発など、第三世界内部の変化に関する基本的な知識を身につけている。 |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | 定期考査・課題の提出状況・出席状況・授業態度を勘案して、総合的に評価を行う。 |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 日本史B(文) | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 詳説日本史 改訂版 日B309

副教材等 「新編資料日本史」とうほう 「図説日本史通覧」帝国書院 「日本史重要語句Check List」啓隆社

学習目標 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

授業の進め方,学習方法 日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について重点的に取り扱い、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きることに課題意識を持って、追究していく。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-------------|--|---|---|
| 1学期 | 第1章 日本文化のあけぼの | 日本の旧石器時代から縄文時代の生活や文化を遺跡、遺物などを通して理解する。 弥生文化の形成と、身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解する。また、ヤマト政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解する。 | 旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会、文化についての基本的な事柄を自然条件の変化や大陸とのかわりに関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 弥生時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程についての基本的な事柄を東アジア世界の状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第2章 律令国家の形成 | 大和朝廷の国内統一と飛鳥に朝廷があった時代、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解する。 | 大和朝廷による統一から奈良時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、国家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第3章 貴族政治と国風文化 | 東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことをする。 | 平安時代の社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| 2学期 | 第4章 中世社会の成立 | 荘園支配の動向と地方社会のあり方と武士の台頭を関連づけて理解する。また、文化の面で武士や庶民の生活が反映されたことに着目させ、古代社会の変化の中の中世社会の萌芽が見られたことを理解する。 | 院政と平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第5章 武家社会の成長 | 武士社会の成立とその成長を鎌倉時代から室町時代にかけてその限界とともに理解する。また、日本の諸地域の動向に着目し、交通の発達などによって流通経済が進化したことを理解する。その際、アイヌとの交易や琉球の中継貿易、日民貿易が日本の貨幣流通に大きな影響を与えたことなど東アジア世界との交流にも留意する。 | |
| | 第6章 幕藩体制の確立 | 織豊政権と桃山文化とその歴史的な意味を理解する。 | 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解している。文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解している。 |
| | 第7章 幕藩体制の展開 | 徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外関係を構造的にとらえさせるとともに、大名等の統制のあり方や鎖国の実態について考える。 | 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解している。 |
| 第8章 幕藩体制の動揺 | 文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景をとらえさせるとともに、商品経済の発展が封建制に及ぼした影響を考え、幕政改革の諸相を理解する。また、庶民文化としての江戸期の文化のあり方を理解する。 | | |
| 3学期 | 1年間の復習 | 既習事項の定着を目的として、入試問題など演習を行う。 | 通史、文化史、分野史についての基本的・標準的な知識を身に付けている。 |

成績評価方法 「考査」を中心に、提出課題、学習への取り組み方などを考慮して総合的に評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 日本史B(理) | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|-------|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 詳説日本史 改訂版 日B309

副教材等 「新編資料日本史」とうほう 「図説日本史通覧」帝国書院 「日本史重要語句Check List」啓隆社

学習目標 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

授業の進め方、学習方法 日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について重点的に取り扱い、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きることに課題意識を持って、追究していく。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|---------------|--|---|
| 1学期 | 第1章 日本文化のあけぼの | 日本の旧石器時代から縄文時代の生活や文化を遺跡、遺物などを通して理解する。 弥生文化の形成と、身分の分化や階級の成立にみられる社会の変化について理解する。また、ヤマト政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解する。 | 旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会、文化についての基本的な事柄を自然条件の変化や大陸とのかかわりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 弥生時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程についての基本的な事柄を東アジア世界の状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第2章 律令国家の形成 | 大和朝廷の国内統一と飛鳥に朝廷があった時代、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解する。 | 大和朝廷による統一から奈良時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、国家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第3章 貴族政治と国風文化 | 東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことを理解する。 | 平安時代の社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| 2学期 | 第4章 中世社会の成立 | 荘園支配の動向と地方社会のあり方と武士の台頭を関連づけて理解する。また、文化の面で武士や庶民の生活が反映されたことに着目させ、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを理解する。 | 院政と平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 第5章 武家社会の成長 | 武士社会の成立とその成長を鎌倉時代から室町時代にかけてその限界とともに理解する。また、日本の諸地域の動向に着目し、交通の発達などによって流通経済が進化したことを理解する。その際、アイヌとの交易や琉球の中継貿易、日民貿易が日本の貨幣流通に大きな影響を与えたことなど東アジア世界との交流にも留意する。 | |
| | 第6章 幕藩体制の確立 | 織豊政権と桃山文化とその歴史的な意味を理解する。 | 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解している。 |
| | 第7章 幕藩体制の展開 | 徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外関係を構造的にとらえさせるとともに、大名等の統制のあり方や鎖国の実態について考える。 | 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解している。 |
| | 第8章 幕藩体制の動揺 | 文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景をとらえさせるとともに、商品経済の発展が封建制に及ぼした影響を考え、幕政改革の諸相を理解する。また、庶民文化としての江戸期の文化のあり方を理解する。 | 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解している。 |
| 3学期 | 1年間の復習 | 既習事項の定着を目的として、入試問題など演習を行う。 | 通史、文化史、分野史についての基本的・標準的な知識を身に付けている。 |

成績評価方法 「考査」を中心に、提出課題、学習への取り組み方などを考慮して総合的に評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 地理B(文) | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|-------|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 新詳高等地図(帝国書院)、新詳地理B(帝国書院)

副教材等 新詳地理資料COMPLETE(帝国書院)、地理統計(帝国書院)、ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう)

| | |
|-------------|---|
| 学習目標 | 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。 |
| 授業の進め方、学習方法 | 教科書、副教材を使用しながら、系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが、適宜グループワークも行う。 |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--|---|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1 学期 | 工業からみた世界 アングロアメリカの工業 ロシアおよび周辺諸国の工業 アジアの工業 その他の国々の工業 日本の工業 | エネルギー・原料資源の生産・分布の偏在性を把握し、生産国と消費国それぞれの産業構造の特色の傾向と、エネルギー・原料資源の国際的流通の関係を理解する。 工業地域の形成に共通する立地条件を把握し、条件の変化による立地移動を考察するとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。 | 【知識・技能】世界の資源・産業について系統地理的に理解している。さらに、その知識を事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】世界の資源・産業について、多面的・多角的に捉え、現在の国際関係や将来の世界像についても考察し、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】世界の資源・産業について関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| | 世界を結ぶ交通・通信 世界の貿易 人口、村落・都市 生活文化、民族・宗教、国家 現代世界の国家と国家群 | 世界を結ぶ交通や通信について、その発達や特徴について理解する。グローバル化の進展と世界の貿易や商業・観光業について様々な資料を活用して理解する。村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることを把握する。資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から人口・食料問題や都市問題の地域性と課題を理解し、課題解決に向けて考察する。民族・領土問題の発生地域の共通性と異質性に着目し、その複雑な背景を考察し、問題解決に果たす国際的取り組みを把握する。国家群の現状と課題を理解し、それらがグローバル化の進展に果たす役割について考察する。 | 【知識・技能】交通・通信・貿易、人口・村落・都市、民族・宗教・国家について、系統地理的に理解している。さらに、それらを事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】学習内容について多面的・多角的に捉え、将来のより良い世界像について考察し、その成果を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】地球規模化する世界の諸課題に対する関心と課題意識を高め、課題解決に向けて世界的視野から各地域の環境条件と関連づけて追究する学習に意欲的に取り組み、国際協力のあり方を探究しようとしている。 |
| 2 学期 | 現代世界の地誌的考察 アジア アフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ | 今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。 | 【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| | ラテンアメリカ オセアニア 両極地方 | 今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。 | 【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| 3 学期 | 系統地理および地誌についての総合的探究 | 系統地理と地誌の知識を統合し、様々な地理的事象について探究する。 | 【知識・技能】系統地理と地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象について理解を深める。地図や図表から学習内容を読み取る技能を深める。 【思考・判断・表現】取り上げた地理的事象や地域について、多面的・多角的に捉え、さらに考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | 【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また、地図や図表などの資料から、系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について、多面的・多角的に捉え、考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し、その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。 |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 地理B(理) | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|-------|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|--------------------------|
| 使用教科書 | 新詳高等地図(帝国書院)、新詳地理B(帝国書院) |
|-------|--------------------------|

| | |
|------|---|
| 副教材等 | 新詳地理資料COMPLETE(帝国書院)、地理統計(帝国書院)、ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう) |
|------|---|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。 |
|------|---|

| | |
|-------------|---|
| 授業の進め方・学習方法 | 教科書、副教材を使用しながら、系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが、適宜グループワークも行う。 |
|-------------|---|

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|--|---|---|
| 1 学期 | 工業からみた世界 アングロアメリカの工業 ロシアおよび周辺諸国の工業 アジアの工業 その他の国々の工業 日本の工業 | エネルギー・原料資源の生産・分布の偏在性を把握し、生産国と消費国それぞれの産業構造の特色の傾向と、エネルギー・原料資源の国際的流通の関係を理解する。 工業地域の形成に共通する立地条件を把握し、条件の変化による立地移動を考察するとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。 | 【知識・技能】世界の資源・産業について系統地理的に理解している。さらに、その知識を事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】世界の資源・産業について、多面的・多角的に捉え、現在の国際関係や将来の世界像についても考察し、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】世界の資源・産業について関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| | 世界を結ぶ交通・通信 世界の貿易 人口、村落・都市 生活文化、民族・宗教、国家 現代世界の国家と国家群 | 世界を結ぶ交通や通信について、その発達や特徴について理解する。グローバル化の進展と世界の貿易や商業・観光業について様々な資料を活用して理解する。村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることを把握する。資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から人口・食料問題や都市問題の地域性と課題を理解し、課題解決に向けて考察する。民族・領土問題の発生地帯の共通性と異質性に着目し、その複雑な背景を考察し、問題解決に果たす国際的取り組みを把握する。国家群の現状と課題を理解し、それらがグローバル化の進展に果たす役割について考察する。 | 【知識・技能】交通・通信・貿易、人口・村落・都市、民族・宗教・国家について、系統地理的に理解している。さらに、それらを事例として取り上げた地域に適用し、地誌的にも理解を深めている。地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】学習内容について多面的・多角的に捉え、将来のより良い世界像について考察し、その成果を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】地球規模化する世界の諸課題に対する関心と課題意識を高め、課題解決に向け |
| 2 学期 | 現代世界の地誌的考察 アジア アフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ | 今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。 | 【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| | ラテンアメリカ オセアニア 両極地方 | 今までに学習してきた系統地理の知識を再構築し、それらを各地域や国家での事例に適用し、地誌的な理解を深める。また、系統地理では触れなかった各地域・国家の特色を把握し、より多面的・多角的に地誌を考察する。 | 【知識・技能】学習してきた系統地理の知識・技能を、取り上げる地域に適用し、地誌的に理解を深めている。また、地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】取り上げた地域について、多面的・多角的に捉え、他の地域との比較などを通じて考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地域についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 |
| 3 学期 | 系統地理および地誌についての総合的探究 | 系統地理と地誌の知識を統合し、様々な地理的事象について探究する。 | 【知識・技能】系統地理と地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象について理解を深める。地図や図表から学習内容を読み取る技能を深める。 【思考・判断・表現】取り上げた地理的事象や地域について、多面的・多角的に捉え、さらに考察を深める。また、その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】取り上げた地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | 【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し、様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また、地図や図表などの資料から、系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について、多面的・多角的に捉え、考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し、その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め、様々な観点から意欲的に探究しようとしている。 |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|----|-------|-------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 倫理 | 学年・類型 | 3年選択者 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|-------|----|----|-------|-------|------|------|------|-----|

使用教科書 『高校 倫理 新訂版』(実教出版)

副教材等 『アプローチ 倫理資料PLUS』(とうほう)、『入試対策問題集 ステップアップ倫理』(第一学習社)

| | |
|-------------|--|
| 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の生きる課題とのかかわりにおいて、青年期の意義と課題を理解するとともに、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深める。 2. 現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深め、自己の生き方の確立をめざす。 3. よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深める。 |
| 授業の進め方・学習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 画像・映像・原典資料等を活用し、教科書の内容についての解説を行い、先哲の思想内容の理解を深めていく。 2. 授業内容をまとめるため、整理ノートを有効に活用する。 3. 問題演習を通して、学習内容の確認を行う。 |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--|--|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1 学期 | 第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第2章 人間としての自覚 第1節～第6節 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴や発達課題について著名な学者の研究成果を手掛かりに学習するとともに、青年期を生きる上の術を心理学的な観点から学ぶ。 ・古代ギリシャ思想としての自然哲学、ソクラテス、プラトン、アリストテレスやヘレニズム時代の思想の特徴をつかみながら理解する。 ・「三大宗教(キリスト教・イスラーム・仏教)」について、それぞれの教えの特徴を把握し、宗教的な生き方に触れるとともに今日の世界情勢の理解にもつなげる。 ・中国の古代思想を、儒教を開いた孔子を中心に、彼との対比をとおして他の中国思想(墨子～老荘思想)の特徴も理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期を自己の問題として関心をもち、その課題に取り組もうとする意欲をもつと同時に、心理学の知見や概念を理解し正確な知識をもっている。 ・古代ギリシャの思想の歴史の変遷を理解している。ソクラテス・プラトン・アリストテレスの哲学としての共通点と相違点を正確に理解している。 ・三大宗教のそれぞれの教えの内容を宗教的用語の意味とともに理解している。ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の成立の過程を学び、相互の確執の背景について理解している。 ・中国の古代思想について、関連する専門用語とともにそれぞれの思想内容を理解している。 |
| | 第3章 日本人としての自覚 第1節～第4節 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の宗教観・倫理観について考察する。 ・日本に移入された仏教が時代とともに変容していく概要をつかむ。 ・日本に伝えられた儒教が、徳川幕藩体制成立のころから日本化されていく過程を理解する。 ・石門心学や報徳運動など町人文化の隆盛とともに起こった町人や農民の学問・運動を理解する。 ・幕末以降の近代日本に登場した著名な思想家・学者・社会運動家らの思想を学ぶ。 ・終戦後の我が国に登場し、社会的に大きな影響力をもった学者・思想家の思想について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国社会が伝統的に尊重してきた価値観・倫理観について理解を深めることができた。 ・我が国の歴史に登場した最澄らの著名な仏教思想について知識・理解をひろげ、歴史の変遷、さらには現代社会における仏教の在り様についての認識を深めることができる。 ・朱子学の思想的特徴が陽明学との比較において理解できたか。 ・江戸時代に盛んになった様々な思想について、知識・理解を深めることができた。 ・敗戦という価値観の大きな転換点において日本人の精神世界に多大なる影響を与えた学者・思想家について、理解を深めることができた。 |
| 2 学期 | 第2編 現代と倫理 第1章 現代に生きる人間の倫理 第1節～第4節 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの中世を打ち砕く動きとしてのルネサンス・宗教改革・モリストの思想などについての理解を深める。 ・認識論の対立する立場としてのベーコンに代表されるイギリス経験論とデカルトを祖とする合理論を、それぞれの考え方の違いを踏まえて理解させる。 ・ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説の特徴の違いを理解するとともに、民主主義社会の成立過程について把握し、現代への影響や民主主義のあり方と真の自由について考える。 ・ドイツ観念論哲学について、カントとヘーゲルの思想を中心に学ぶとともに、両者の相違点についても理解させる。 ・功利主義思想の内容とその思想が歴史に与えた影響について学ぶとともに、量的功利主義と質的功利主義の違いについても理解する。 ・社会主義思想について、マルクスの科学的社会主義を中心に学ぶ。 ・実存主義思想の特徴、それぞれの思想家の思想内容について学習する。 ・現代の思想家として位置づけられる数多くの学者・思想家の主張の内容についての理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの中世から近代への時代的移行に貢献したルネサンス期の人々や宗教改革の旗手となったルターやカルヴァンの主張や思想を正しく理解している。 ・経験論・合理論の考え方の特徴と両者の違い、さらには認識論におけるカントの果たした貢献について理解できている。 ・社会契約説とは何か、そしてホッブズ・ロック・ルソーの相違点、さらには彼らの思想が歴史に与えた影響について理解できている。 ・カントの思想を特徴づける道徳法則の内容、ヘーゲルの弁証法という考え方やその思想が果たした歴史的役割について理解できている。 ・功利主義思想が登場してきた社会背景、ベンサム・ミルの思想内容、彼ら思想が歴史に与えた影響などに関し、正確な知識・理解が得られている。 ・社会主義思想が登場した社会的背景、マルクスの思想や歴史への影響などについて理解できている。 ・実存主義の考え方が生まれてきた歴史的理由、キルケゴールらの有神論的実存主義・サルトルらの無神論的実存主義の思想内容について知識や理解は深まった。 ・現代の思想家たちが、西洋近代の何を批判的に考察し、どのような思想を展開したのか理解できた。 |
| | 第1章 現代に生きる人間の倫理 第5節～第6節 第2章 現代の諸課題と倫理 | <ul style="list-style-type: none"> ・理性中心主義を批判する、フロイトとユングの思想を理解する。 ・ソシュールとウイトゲンシュタインの思想を理解し、言葉と人間のあり方について考察する。 ・フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察する。 ・構造主義やフーコー、レヴィナスなどの思想を理解し、人間の主体性について考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・近代における人間中心主義を見直すことの意義を意欲的に探究する。 ・自然や他者との連帯・共生を目指す思想や社会参加の意義を意欲的に探究する。 |
| 3 学期 | | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会が抱えている様々な倫理的な課題に関する問題の在り様やその本質について学ぶ。 ・問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度について確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげる意欲をもつとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について、主体的に探究しようとしている問題の設問に対して正確な解答を導くことができた。 |

| | |
|--------|------------------------------------|
| 成績評価方法 | 「考査」を中心に、提出課題、授業態度などを考慮して総合的に評価する。 |
|--------|------------------------------------|

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|------|-------|-------|------|------|------|-----|
| 教科 | 地歴・公民 | 科目 | 政治経済 | 学年・類型 | 3年選択者 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|-------|----|------|-------|-------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|-------------|
| 使用教科書 | 政治・経済(東京書籍) |
|-------|-------------|

| | |
|------|---------------------------------------|
| 副教材等 | 政治・経済資料2021(とうほう)、ステップアップ政治・経済(第一学習社) |
|------|---------------------------------------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | <p>1 民主主義の本質について理解を深めさせるとともに、理論的・体系的に理解させる。</p> <p>2 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。</p> <p>3 現代の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育成していく。</p> |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| 授業の進め方、学習方法 | 授業の進行は、講義形式を基本とする。適宜プリントを配布し、テーマにより調べ学習や発表形式を取り入れる。また、問題演習などを加えながら、理解を深めさせる。 |
|-------------|--|

| 学習計画 | | | |
|------|--|--|--|
|------|--|--|--|

| 学期 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|
| 1学期 | 1節 民主政治の基本原則 1～4 | <ul style="list-style-type: none"> ・立憲政体が形成された歴史的経緯を学び、憲法に規定された原則の意味を知る。 ・日本国憲法の成立の経緯、前憲法との相違について学ぶ。 ・憲法の三大原則である「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」についての理解を深める。 ・三権相互の関係、そして国会・内閣・裁判所のしくみ、さらには立法権・行政権・司法権の機能について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・憲法とは何かが、世界史的流れとともに理解できたか。 ・基本的人権の種類やそれぞれの人権の現実的な意味について知ることができたか。 ・わが国の議院内閣制のしくみが理解できたか。 ・立法権・行政権・司法権とは具体的にどのようなことを学ぶことができたか。 | | |
| | 2節 日本国憲法の基本原則 1～3 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・政党の意義・歴史について学ぶ。 ・現在のわが国の選挙制度とその問題点について学ぶ。 ・世論形成においてマスコミの果たす役割とその問題点について学習する。 ・国際社会成立の過程とその発展について歴史的な観点で学ぶ。 ・国際連合のしくみ・役割・問題点について学習する。 ・戦後国際社会の歴史的流れと現状・課題などについて認識を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・政党・選挙制度・マスコミについて実社会と関連付けて理解できているか。 ・国際社会の意味や現状を、その歴史的流れを踏まえて知ることができたか。 ・国際連合の意義やしくみが学べたか。 ・世界の中で生じた紛争の原因やそれを抑止する仕組みや具体的な行動について認識は深まったか。 |
| | 3節 日本の政治機構 1～4 | | | | |
| 4節 現代政治の特質と課題 1～3 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本社会の経済史を主な出来事をたどりつつ学ぶ。 ・戦後日本社会が抱えてきた経済上の問題点に関する以下の事柄について学習する。『公害と環境保全』『消費者問題』『農業・食糧問題』『中小企業の現状と課題』『雇用と労働問題』『社会保障と福祉』 ・自由貿易主義と保護貿易主義の違いと、それに関する現在の国際経済の状況について学ぶ。 ・貿易に関わる基本的な制度である『外国為替制度』のしくみについて学習する。 ・国際経済に関する組織や抱える問題点について学ぶ。 ・国際経済の今日的動きである『地域主義』『グローバリゼーション』について理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済がたどってきた歩みとそれを背景とした現在の状況を知ることができたか。 ・環境問題に関してこれまで生じてきた問題とそれに対する政府の対応、さらには現在の課題などについて理解できたか。 ・様々な消費者問題について、自分の問題として学ぶことができたか。 ・戦後わが国の農業政策の変遷や農業の現状と課題について、現実問題として理解できたか。 ・わが国社会の経済の二重構造とそれに関わる問題点について現状認識できたか。 ・雇用形態についての新たな動きや労働関係や条件に関する諸問題を知ることができたか。 ・現在のわが国の社会保障制度のしくみと問題点が理解できたか。 ・自由主義貿易のメリットが保護貿易主義との比較において理解できたか。 ・『円高・円安』について制度的・原理的な理解が達成できているか。 ・国際経済の中のわが国の位置づけ、さらに果たすべき役割が、世界の現状や構造を踏まえて理解できているか。 ・経済のグローバル化についての現状を知ることができたか。 | | | |
| 5節 現代の国際政治 1～7 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題の設問に対して正確な解答を導くことができたか。 | |
| 2学期 | 1節 現代の資本主義経済 1～2 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本社会が抱えてきた経済上の問題点に関する以下の事柄について学習する。『公害と環境保全』『消費者問題』『農業・食糧問題』『中小企業の現状と課題』『雇用と労働問題』『社会保障と福祉』 ・自由貿易主義と保護貿易主義の違いと、それに関する現在の国際経済の状況について学ぶ。 ・貿易に関わる基本的な制度である『外国為替制度』のしくみについて学習する。 ・国際経済に関する組織や抱える問題点について学ぶ。 ・国際経済の今日的動きである『地域主義』『グローバリゼーション』について理解を深める。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済がたどってきた歩みとそれを背景とした現在の状況を知ることができたか。 ・環境問題に関してこれまで生じてきた問題とそれに対する政府の対応、さらには現在の課題などについて理解できたか。 ・様々な消費者問題について、自分の問題として学ぶことができたか。 ・戦後わが国の農業政策の変遷や農業の現状と課題について、現実問題として理解できたか。 ・わが国社会の経済の二重構造とそれに関わる問題点について現状認識できたか。 ・雇用形態についての新たな動きや労働関係や条件に関する諸問題を知ることができたか。 ・現在のわが国の社会保障制度のしくみと問題点が理解できたか。 ・自由主義貿易のメリットが保護貿易主義との比較において理解できたか。 ・『円高・円安』について制度的・原理的な理解が達成できているか。 ・国際経済の中のわが国の位置づけ、さらに果たすべき役割が、世界の現状や構造を踏まえて理解できているか。 ・経済のグローバル化についての現状を知ることができたか。 |
| 3学期 | 2節 現代経済のしくみ 1～6 | | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本社会が抱えてきた経済上の問題点に関する以下の事柄について学習する。『公害と環境保全』『消費者問題』『農業・食糧問題』『中小企業の現状と課題』『雇用と労働問題』『社会保障と福祉』 ・自由貿易主義と保護貿易主義の違いと、それに関する現在の国際経済の状況について学ぶ。 ・貿易に関わる基本的な制度である『外国為替制度』のしくみについて学習する。 ・国際経済に関する組織や抱える問題点について学ぶ。 ・国際経済の今日的動きである『地域主義』『グローバリゼーション』について理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済がたどってきた歩みとそれを背景とした現在の状況を知ることができたか。 ・環境問題に関してこれまで生じてきた問題とそれに対する政府の対応、さらには現在の課題などについて理解できたか。 ・様々な消費者問題について、自分の問題として学ぶことができたか。 ・戦後わが国の農業政策の変遷や農業の現状と課題について、現実問題として理解できたか。 ・わが国社会の経済の二重構造とそれに関わる問題点について現状認識できたか。 ・雇用形態についての新たな動きや労働関係や条件に関する諸問題を知ることができたか。 ・現在のわが国の社会保障制度のしくみと問題点が理解できたか。 ・自由主義貿易のメリットが保護貿易主義との比較において理解できたか。 ・『円高・円安』について制度的・原理的な理解が達成できているか。 ・国際経済の中のわが国の位置づけ、さらに果たすべき役割が、世界の現状や構造を踏まえて理解できているか。 ・経済のグローバル化についての現状を知ることができたか。 | |
| | 3節 日本経済の発展と産業構造の変化 1～3 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度を確認する。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・問題の設問に対して正確な解答を導くことができたか。 |
| | 4節 福祉社会と日本経済の課題 1～6 | | | | |
| 5節 国民経済と国際経済 1～5 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、1年間の学習内容を復習し、各人の理解度を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題の設問に対して正確な解答を導くことができたか。 | | | |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | 定期考査の得点状況、課題提出状況、内容評価、授業参加状況、以上の点を中心に、総合的に評価する。 |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅱ(文) | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 数学Ⅱ(数研出版)

副教材等 四訂版メジアン数学演習ⅠⅡAB

学習目標 学習した内容の一層の深化と定着を図る。

授業の進め方,学習方法 問題集を中心とした問題演習

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|-----------------------------------|--|---|
| 1学期 | VIII 三角・指数・対数関数 IX 微分法・積分法 | <ul style="list-style-type: none"> 三角関数, 指数関数及び対数関数について理解し, 関数についての理解を深め, それらを具体的な事象の考察に活用する。 具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し, それを用いて関数の値の変化を調べ面積を求める。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | II 関数と方程式と不等式 III 式と証明, 論理 | <ul style="list-style-type: none"> 一次不等式及び二次方程式についての理解を深め, それらを活用する。 二次関数について理解し, 関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに, それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 2学期 | IV 整数の性質 V 場合の数・確率 VI 図形の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 整数の基本を活用し応用問題を解く 具体的な事象の考察などを通して, 順列・組合せや確率について理解し, 不確実な事象を数量的にとらえることの有用性を認識し, 事象を数学的に考察する。 図形の性質を確認し, それを用いて平面図形・空間図形を考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 入試問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> プリント等を利用した実践的な問題の演習 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 3学期 | 入試問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> プリント等を利用した実践的な問題の演習 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |

成績評価方法 定期考査の成績、課題考査の成績、普段の問題演習の取り組みの状況と板書内容、提出課題を総合して評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅲ | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 3単位 |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 改訂版 数学Ⅲ(数研出版)

副教材等 サクシード数学Ⅲ、チャート式基礎からの数学Ⅲ、スタンダード数学演習ⅠⅡAB

学習目標 平面上のいろいろな曲線や複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を育てる。

授業の進め方,学習方法 教科書をベースに講義形式で内容を伝え、問題集を利用した演習等によりその理解の定着と深化を図る。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|--|---|--|
| 1学期 | 第2章 式と曲線 1. 2次曲線 2. 媒介変数と極座標 | ・放物線、楕円、双曲線 ・極座標と極方程式 | ・2次曲線の有用性を認識し、図形の性質を調べるのに活用しようとする。 ・2次曲線、曲線の媒介変数表示、極方程式の概念が理解できている。 ・2次曲線の定義や極座標を利用して、いろいろな曲線の方程式を求めることができる。 ・2次曲線と直線、平行移動等への応用などに活用することができる。 |
| | 1. 関数と方程式・不等式 2. 式と証明、論理 3. 個数の処理・確率 4. 平面図形 5. 図形と式 | 関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や不等式を解くことなどに活用できるようにする。 一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。 | ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 2学期 | 6. 三角・指数・対数関数 7. 微分法・積分法 8. ベクトル | 三角関数、指数関数及び対数関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。 ベクトルについての概念を理解し、図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 | ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 入試問題演習 | 入試問題等の実践的な演習を行う。 | ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 3学期 | 入試問題演習 | 入試問題等の実践的な演習を行う。 | ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |

成績評価方法 定期考査の成績、課題考査の成績、普段の問題演習の取り組みの状況と板書内容、提出課題以上を総合して評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 発展数学X | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|-----------|
| 使用教科書 | 数学Ⅲ(数研出版) |
|-------|-----------|

| | |
|------|--|
| 副教材等 | サクシード 数学Ⅲ、チャート式基礎からの数学Ⅲ、オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ |
|------|--|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を育てる。 |
|------|--|

| | |
|-------------|---|
| 授業の進め方,学習方法 | 教科書をベースに講義形式で内容を伝え、問題集を利用した演習等によりその理解の定着と深化を図る。 |
|-------------|---|

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--|--|--|
|---------|--|--|--|

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|--|---|--|
| 1学期 | 第4章微分法の応用 1. 導関数の応用 2. 関数の増減 3. いろいろな応用 | <ul style="list-style-type: none"> 関数の増減と$f(x)$の符号との関係を再確認し様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフが描けるようにする。 第2次導関数を用いてグラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。 運動の速度・加速度を微分法により系統的に学ぶ。 導関数を用いて、1次近似式を導き関数の近似値を求められるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 関数値の増減、速度、加速度に関心を持ち、問題解決に意欲的に取り組もうとする。 関数値の増減、速度、加速度についての考え方を身に付け、具体的な事象に考察できる。 関数値の増減、速度、加速度について、事象を数学的に考察し、表現し処理することができる。 関数値の増減、速度、加速度について理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |
| | 第5章積分法 1. 不定積分 2. 定積分 第6章積分法の応用 1. 面積 2. 体積 | <ul style="list-style-type: none"> 整数関数、分数関数、指数関数、三角関数の不定積分、積分定数 置換積分と部分積分法の活用 積分と微分の関係 区分求積法と面積 不等式の証明と無限級数 面積の計算 媒介変数を用いた曲線と面積 立体図形の体積と定積分 ・ 回転体の体積 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数について、その不定積分や定積分を考察しようとする。 その不定積分や定積分の性質を理解できている。 いろいろな関数の積分を求めることができる。 積分の基本的な考え方を理解し、必要な工夫を行うことができる。 積分法の有用性を認識し図形の求積に活用しようとする。 積分を利用して、面積の概念が理解できている。 積分を利用して、面積を求めることができる。 積分法を、曲線の長さや微分方程式への応用などに活用することができる。 積分法の有用性を認識し、図形の求積に活用しようとする。 積分を利用して、体積の概念が理解できている。 積分を利用して、体積を求めることができる。 積分法を、曲線の長さや微分方程式への応用などに活用することができる。 |
| 2学期 | 1. 関数と曲線 2. 数列と極限 3. 微分法 | <ul style="list-style-type: none"> 微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。 いろいろな関数についての微分法を理解し、それを用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 4. 微分法の応用 5. 積分法 6. 積分法の応用 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。 行列の概念とその基本的な性質について理解し、数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、連立一次方程式を解くことや点の移動の考察などに活用できるようにする。 確率の計算及び確率変数とその分布についての理解を深め、不確定な事象を数学的に考察する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 3学期 | 入試問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。 行列の概念とその基本的な性質について理解し、数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、連立一次方程式を解くことや点の移動の考察などに活用できるようにする。 確率の計算及び確率変数とその分布についての理解を深め、不確定な事象を数学的に考察する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | 定期考査の成績、課題考査の成績、普段の問題演習の取り組みの状況と板書内容、提出課題以上を総合して評価する。 |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 発展数学Y | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|----------------------------------|
| 使用教科書 | |
| 副教材等 | 大学入試共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I II AB |

| | |
|-------------|---------------------|
| 学習目標 | 学習した内容の一層の深化と定着を図る。 |
| 授業の進め方,学習方法 | 問題集を中心とした問題演習 |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--------|---|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1学期 | 数学Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> 複素数と2次方程式 図形と方程式 三角関数 指数・対数関数 微分法・積分法 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 数学Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> 式と計算 2次関数 図形と軽量 データの分析 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 2学期 | 数学A | <ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 数学B | <ul style="list-style-type: none"> ベクトル 数列 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 3学期 | 入試問題演習 | 入試問題等を活用した実践的な演習 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に挑戦しようとする意欲があるか。 問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 実際に計算、その他の処理が適切にできるか。 基本的な公式や解法が身に付いているか。 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | 定期考査の成績、課題考査の成績、普段の問題演習の取り組みの状況と板書内容、提出課題を総合して評価する。 |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学B | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|-----|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書

副教材等 四訂版メジアン数学演習 I II AB 改訂版大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習

学習目標 学習した内容の一層の深化と定着を図る。

授業の進め方,学習方法 問題集を中心とした問題演習

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|--------|---|---|
| 1 学期 | ベクトル | ベクトルについての基本的な概念を理解し, 基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し, いろいろな事象の考察に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 数列 | 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し, それらを用いて事象を数学的に考察し処理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 2 学期 | 入試問題演習 | プリント等を利用した即戦的な問題の演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| | 入試問題演習 | プリント等を利用した即戦的な問題の演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |
| 3 学期 | 入試問題演習 | プリント等を利用した即戦的な問題の演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に挑戦しようとする意欲があるか。 ・問題に隠されている基本的な概念を見抜けるか。 ・実際に計算, その他の処理が適切にできるか。 ・基本的な公式や解法が身に付いているか。 |

成績評価方法 定期考査の成績、課題考査の成績、普段の問題演習の取り組みの状況と板書内容、提出課題を総合して評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 総合物理基礎 | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 改訂版 物理基礎(数研出版)

副教材等 三訂版 リードα 物理基礎(数研出版)

学習目標 物理基礎で学習した内容を復習し、演習を積むことにより、自然界における物理現象についての理解を深める。
また、物理的に考える論理的思考や事象へのアプローチの仕方を深め、共通テストに適應する力も身につける。

授業の進め方,学習方法 物理基礎の内容復習の説明を受け、自らポイントを確認しながら演習を行う。授業内では互いに復習ポイントを確認しながら行い、理解を深め合うため、発表を積極的に行う。授業内での演習では、問題に対する考え方や解法のポイントなどが説明できるようにしていく。

学習計画

| 学期 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|--|--|--|
| 1学期 | 静電気 電気で使われる量 オームの法則 磁場 モーターが回転する原理 発電機の構造と発電の原理 | <ul style="list-style-type: none"> ・摩擦電気と静電気力について学ぶ ・電気の諸量について学ぶ。 ・オームの法則について学ぶ。 ・磁場と磁場中の電流にはたらく力について学ぶ。 ・モーターについて学ぶ。 ・電磁誘導現象について学ぶ。 ・交流について学ぶ。 ・電波とは何かを学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正電荷と負電荷が電気現象の原因であることを理解する。 ・電圧、電流、電気抵抗などの物理量を求めることができる。 ・磁気現象の原因が電流であることを理解する。 ・モーターの回転する原理を説明できる。 ・電磁誘導を理解し、交流発電の原理を説明できる。 ・電磁波の発生とその利用法を理解する。 |
| | 速度・加速度 等加速度運動 落体の運動 力の性質 力のつり合い いろいろな力 | <ul style="list-style-type: none"> ・速度と速度の合成、相対速度について学ぶ。 ・x-tグラフ、v-tグラフについて学ぶ。 ・等加速度直線運動の3公式について学ぶ。 ・落体の運動が等加速度直線運動であることを学ぶ。 ・物体に働く力である、重力・垂直抗力・張力・弾性力の性質について学ぶ。物理法則である、作用反作用の法則を学ぶ。 ・静止している物体に働く力のつり合いについて学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物体の速度を求められる。 ・x-tグラフから物体の運動が説明できる。 ・等加速度直線運動の3公式で物体の運動が説明できる。 ・落体の運動が等加速度直線運動であることを理解し、位置や速度を求められる。 ・力の合成・分解ができる。力を見つけ、作図ができる。 ・作用反作用の法則を理解し、物体に働く力を作図できる。 ・力のつり合いの式を立てて計算することができる。 |
| 2学期 | 運動の法則 力のする仕事 力学的エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 熱と温度 熱と仕事 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな現象について、運動方程式の使い方を学ぶ。 ・さまざまな力のする仕事について学ぶ。 ・仕事の原理について学ぶ。仕事率について学ぶ。 ・運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーについて学ぶ。力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。 ・セルシウス温度と絶対温度について学ぶ。 ・熱量保存の法則と熱容量、比熱の関係を学ぶ。 ・熱力学第1法則について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式を作り、物体の加速度や物体に働く力を求めることができる。 ・仕事の意味を理解し、仕事量を求めることができる。 ・仕事の効率である仕事率を求めることができる。 ・エネルギーの意味を理解し、物体の力学的エネルギーを求めることができる。 ・熱量保存の法則や熱力学第1法則を用いて、熱に関する物理量を求めることができる。 |
| | 波の基本 波の重ね合わせ 波の反射・屈折・回折 音波 発音体の振動 共振と共鳴 | <ul style="list-style-type: none"> ・縦波と横波、正弦波の式、位相について学ぶ。 ・波の重ね合わせの原理、干渉、定常波、波の反射について学ぶ。 ・波の反射・屈折の法則、波の回折現象について学ぶ。 ・音の速さ、反射、屈折、干渉について学ぶ。 ・弦の振動と気柱の振動について学ぶ。 ・気柱の共鳴現象を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・波動現象の意味を理解し、波動の基本的な物理量を求めることができる。 ・波が重なりや屈折の法則、反射の法則を理解し、現象を説明できる。 ・弦の振動や気柱の振動により音波が発生することを理解する。 ・共振・共鳴現象を説明できる。 |
| 3学期 | 共通テスト等演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な演習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な問題を解答できる力をつける。 |

成績評価方法

- ・定期考査
- ・考査課題、長期休業中課題
- ・授業の取り組み

 などから総合的に評価する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 総合生物基礎 | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|--------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 高等学校 改訂 生物基礎（第一学習社）

副教材等 スクエア最新図説生物neo、リードα生物基礎、進研WINSTEP生物基礎、共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎

学習目標
 1 1学年で学習した内容を復習しつつ、それを発展させて幅広い知識を身につける。
 2 難化傾向にある共通テストに対応できる実力がつくように、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につける。
 3 身近な生物現象と自分とのつながりを意識しつつ興味・関心・意欲を持って学習し、科学的な自然観を養う。

授業の進め方,学習方法
 1 教科書・プリントを用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。
 2 授業と並行してリードα生物基礎の基本的事項の復習を、夏までに終わらせるようにする。
 3 2学期からは問題演習(標準演習→実践演習)を中心に取り組み、読解力・考察力を身につける。
 ※76回生3年次は第4章(教科書p.145)から授業を始める。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|---------------|--|--|
| 1 学期 | 第4章 植生の多様性と分布 | 第1節 植生と遷移 植生の構造、遷移のしくみ | <関心・意欲・態度> 授業や提出物の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 生態系に関するデータ解析の考察内容で評価する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |
| | 第5章 生態系とその保全 | 第1節 生態系とその保全 生態系の成り立ち、物質循環とエネルギーの流れ 第2節 生態系のバランスと保全 地球レベルから身近なレベルの環境問題、保全対策 | |
| | 基本的事項の復習 | 図説や問題集を利用して、基本的事項や重要語句の確認をする。 | |
| 2 学期 | 標準演習 | 進研WINSTEP生物基礎を使い、標準問題で実力を養う。 | <関心・意欲・態度> 授業の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 考察問題の内容で評価する。 <技能・表現力> 実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |
| | 実践演習 | 共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎を使い、50分で2回分の演習を行う。 | <関心・意欲・態度> 授業の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 考察問題の内容で評価する。 <技能・表現力> 実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |
| 3 学期 | 実践演習 | 共通テスト対策実力完成直前演習生物基礎を使い、50分で2回分の演習を行う。 | <関心・意欲・態度> 授業の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 考察問題の内容で評価する。 <技能・表現力> 実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |

成績評価方法
 4回の定期考査(中間考査・期末考査)の素点を主資料にして、校内実力考査、授業への取り組み、観察・実験に対する態度、実験レポートの評価、課題の提出状況等を総合的に判断して成績を算出する。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学基礎(文) | 学年・類型 | 3年文系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 1単位 |
|----|----|----|---------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 高等学校 化学基礎(東京書籍)

副教材等 ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)、四訂版サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)、ビーライン化学基礎(第一学習社)・共通テスト対策問題集

学習目標 これまでに学んできた化学基礎を総復習しながら、共通テストで高得点がとれるような学力を養う。

授業の進め方、学習方法 過去のセンター試験・共通テストの問題を厳選した問題集を用いて、今までに習ったことを、再び深く学習させる。結果だけを求めるのではなく、結果にいたるまでの過程を深く考えさせる。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|------------------------|-------------------------------|---|
| 1学期 | 第Ⅰ章 物質の構成 | 1 物質の成分と構成元素 2 原子の構造と周期表 | ・ビーラインの演習による授業中での発言・発表に評価する。 |
| | 第Ⅰ章 物質の構成 第Ⅱ章 物質の変化 | 3 化学結合 4 物質量と濃度 | ・ビーラインの演習による授業中での発言・発表に評価する。 ・定期テストの成績で判断する。 |
| 2学期 | 第Ⅱ章 物質の変化 | 5 化学反応式 6 酸と塩基 7 酸化還元反応 | ・身の回りの化学、実験操作に関するビーラインの演習による授業中での発言・発表に評価する。 |
| | | 身の回りの化学 実験操作 | ・身の回りの化学、実験操作に関するビーラインの演習による授業中での発言・発表に評価する。 ・定期テストの成績で判断する。 |
| 3学期 | | センター直前チェック 予想模擬テスト | ・センター直前チェック、予想模擬テストの成績で評価する |

成績評価方法

- ・授業態度
- ・授業態度授業中の発問に対する応答
- ・定期考査

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学 | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 1単位 |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|---|
| 使用教科書 | 化学(東京書籍) |
| 副教材等 | ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍), サイエンスビューニューステージ新訂化学図表(浜島書店), 実践化学重要問題集(数研出版), HGS分子構造模型A型セット(丸善株式会社) |

| | |
|-------------|---|
| 学習目標 | ①化学的な事象・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ②化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 ③無機化合物や有機化合物の性質や変化を観察、実験などを通して探究し、物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。 |
| 授業の進め方,学習方法 | ①関心・意欲・態度を身に付けさせる。…科学的な事象・現象に関心や探究心を持たせ、主体的にそれらを探究させるように心掛ける。 ②思考・判断力を養う。…科学的な事象・現象の中に問題を見出し、実験・観察を行うことで、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できるようにする。 ③実験を的確に行う力を表現力を養う。…観察・実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けさせる。また、結果を的確に表現できるようにする。 ④知識・理解を定着させる。…観察・実験を通して基本的な概念や原理・法則に理解を深めさせると同時に、問題集を解き、提出させることでより定着させる。 |

| 学習計画 | | | |
|------|---|--|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
| 1学期 | 第3編 化学反応の速さと平衡 3章 水溶液中の化学平衡 塩の水への溶解 | ・緩衝作用と緩衝液 ・難溶性塩の溶解と溶解度積Ksp, 溶解平衡と沈殿の生成, 溶解平衡と金属イオンの分離, 共通イオン効果 | ・弱酸・弱塩基からなる塩の加水分解, 緩衝作用とpH変動, 難溶性塩の溶解平衡について理解・習得し, 平衡移動・溶解度積・共通イオン効果等の考え方を個々の具体的な反応にあてはめる基本的な知識を身に付けている。 |
| | 第4編 無機化合物 1章 非金属元素の単体と化合物 | ・水素と希ガス, ハロゲンとその化合物, 酸素・硫黄とその化合物, 窒素・リンとその化合物, 炭素・ケイ素とその化合物 | ・ハロゲン, 酸素・硫黄, 窒素・リン, 炭素・ケイ素とその化合物の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則及び周期表との関係を理解し, 知識を身に付けている。 |
| | 2章 典型金属元素の単体と化合物 第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 | ・1族元素の単体と化合物・2族元素の単体…アルカリ土類金属とマグネシウムの性質の比較・アルカリ土類金属の化合物・鎖状構造(枝分かれ構造を含む)と環状構造, 単結合・二重結合・三重結合…一般的な性質(可燃性・融点沸点低い・有機溶媒によく溶ける)・鎖状炭化水素と環状炭化水素, 飽和炭化水素と不飽和炭化水素, アルカン, アルケン, アルキン, シクロアルカン, シクロアルケン・炭化水素基と官能基による分類・分子式, 示性式, 構造式, 簡略化した構造式・構造異性体と立体異性体(シストランス異性体(幾何異性体)と鏡像異性体)アルコール, アルデヒド, カルボン酸, エステル, 油脂とセッケン・アルミニウムとその化合物…製法(溶融塩電解)と性質(両性金属・不動態)テルミット反応・亜鉛とその化合物…単体の性質(両性金属・黄銅・トタン)・水銀とその化合物…単体の性質(常温で液体・アマalgam), スズの単体(両性金属・プリキ・青銅) | ・アルカリ金属, 2族元素およびアルミニウム・亜鉛とその化合物の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則及び周期表との関係を理解し, 知識を身に付けている。 ・酸素及び窒素を含む代表的な官能基の反応性と有機化合物の相互の関連について, 観察, 実験などを行い考察できる。 ・有機化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。 ・官能基を含む有機化合物を脂肪族化合物, 芳香族化合物等を通して理解し, 有機化合物相互の関連性についての知識を身に付けている。 ・代表的な個々の官能基の性質に対する知識を身に付けている。 ・油脂やセッケンなどの性質や反応性について, 日常生活に関連付けて理解している。 ・有機化合物全般について, 人間生活と関連付けて理解し, 知識を身に付けている。 |
| 2学期 | 芳香族化合物 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活 食品 医薬品 染料 洗剤 | ・芳香族炭化水素…ベンゼンの構造, ベンゼン環, 芳香族化合物, 置換反応, 付加反応, 酸素を含む芳香族化合物…フェノール, クレゾール, サリチル酸, ナフトール, アルコールとの相違点(弱酸性, 中和反応), 類似点(Naとの反応, 酸無水物とのエステル化)・ニトロ化(ピクリン酸), クメン法による製造, クレゾールの異性体・炭水化合物(単糖・二糖・多糖)・タンパク質とアミノ酸, 必須アミノ酸・油脂と加水分解・五大栄養素, 無機塩類・薬理作用(主作用・副作用), 生薬, 人工薬品としてのアスピリン・対症療法薬と化学療法薬, サルファ剤, 抗生物質・副作用, 耐性菌, 抗ウイルス剤, 抗がん剤・染料と顔料, 天然染料と合成染料, アゾ染料・色素の発色(発色回・助色団), 染色のしくみ(染色)・合成染料の種類・界面活性剤, 合成洗剤 | ・高分子化合物の性質や反応性において, 無機物質や有機化合物とは異なる特徴があることを見いだすことができる。 ・天然高分子化合物の構造・性質・反応性について, 単量体の官能基のはたらきとの関連性を見だし, 論理的に考察できる。 ・天然高分子化合物の性質や反応性について, 糖類, アミノ酸とタンパク質, 酵素, 核酸等を通して理解し, 天然高分子化合物相互の相違と関連性についての知識を身に付けている。 ・合成高分子化合物の構造・性質・反応性について, 単量体の官能基のはたらきとの関連性を見だし, 論理的に考察できる。 ・合成高分子化合物の合成反応や性質・反応性について, 合成繊維, プラスチック, ゴム等の用途別の代表的な合成高分子化合物について理解し, 相互の相違と関連性についての知識を身に付けている。 ・高分子化合物の特徴や反応性について, 日常生活に関連付けて理解している。 |
| | 第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物 2章 天然高分子化合物 単糖類・二糖類 多糖類 アミノ酸 タンパク質 核酸 3章 合成高分子化合物 合成繊維 プラスチック ゴム | ・有機高分子化合物と無機高分子化合物, 天然高分子化合物と合成高分子化合物・単量体, 重合と重合体, 重合度・合成繊維, プラスチック, ゴム, 機能性高分子・重合反応(付加重合・縮合重合・付加重合・共重合・開環重合)・ナイロン66, ナイロン6, アラミド繊維, ポリエチレンテレフタレート・アクリル繊維, ビニロン, 炭素繊維・熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂・付加重合で得られるもの, 縮合重合で得られるもの・架橋構造, フェノール樹脂, アミノ樹脂, アルキド樹脂・陽イオン交換樹脂, 陰イオン交換樹脂, イオン交換樹脂の利用と再生・天然ゴム, ポリイソプレン, ゴム弾性, クラックペルカ, ゴムの老化, 加硫・ジエン化合物, 付加重合, 共重合・単量体の結合の向きと高分子の性質, 立体規則性高分子・一般式, C _n H _{2n} O _n , 単糖類, 二糖類, 多糖類, 六炭糖と五炭糖・性質(還元性, アルコール発酵)・デンプン, らせん構造, ヨウ素デンプン反応, デンプンの加水分解・セルロースの直線状構造とグリコシド結合, 加水分解・示性式[C ₆ H ₇ O ₂ (OH) ₃] _n , ニトロセルロース・銅アモニオアレーンとビスコースレーヨン, アセテート繊維・α-アミノ酸, 必須アミノ酸, グリシン, アラニン, 鏡像異性体, グルタミン酸, 中性・酸性・塩基性アミノ酸・双性イオン, 電離平衡, 等電点, 電気泳動, ニヒドリン反応・ペプチド結合, ペプチド(ジペプチド・トリペプチド・ポリペプチド), ジペプチドの構造・タンパク質の性質・酵素の種類と性質・ヌクレオチドとポリヌクレオチド, DNAとRNA・リボソーム, 塩基の種類 | ・高分子化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。 ・合成高分子化合物について, 人間生活と関連付けて理解し, 知識を身に付けている。 |
| 3学期 | 4章 高分子化合物と人間生活 プラスチック利用の拡大と環境問題 | ・機能性高分子(導電性高分子・半透膜・感光性高分子・光透過性高分子・高吸水性高分子・生分解性高分子) ・リサイクル(マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル), 生分解性高分子 | ・高分子化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。 ・合成高分子化合物について, 人間生活と関連付けて理解し, 知識を身に付けている。 |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | <p>評価の観点及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問に対する応答 ・実験報告書 ・定期考査・実力考査 <p>・関心・意欲・態度…自然の事象・現象に関心や探究心を持ち, 意欲的にそれらを探究しようとするとともに, 科学的態度を身に付けている。</p> <p>・思考・判断・表現…自然の事象・現象の中に問題を見だし, 探究する過程を通して, 事象を科学的に考察し, 導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>・観察・実験の技能…観察, 実験を行い, 基本操作を習得するとともに, それらの過程や結果を的確に記録, 整理し, 自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>・知識・理解…自然の事象・現象について, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。</p> |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 物理 | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|--------------|
| 使用教科書 | 改訂版 物理（数研出版） |
|-------|--------------|

| | |
|------|---------------|
| 副教材等 | リードα 物理（数研出版） |
|------|---------------|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 物理基礎でいろいろな物理現象を学んだが、物理ではさらに広い範囲の物理現象を取り扱う。観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。また、物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。 |
|------|--|

| | |
|-------------|---|
| 授業の進め方,学習方法 | 物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。提出課題としては、問題集(リードα)の考查範囲の問題を考查ごとに解答する。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。 |
|-------------|---|

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--|--|--|
|---------|--|--|--|

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|---|---|---|
| 1 学期 | 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1.静電気力 2.電場 3.電位 4.物質と電場 5.コンデンサー | 電荷間にはたらく力の大きさについてのクーロンの法則を理解させる。電荷のまわりのできる電場は、ベクトルであることを理解させ、電気力線によって表されることを理解させる。静電気力による位置エネルギーが電位であることを理解させる。電場と電位との関係を理解させる。電場の中に物体を置くと、物体の表面には電荷が現れるが、物体が導体か不導体かにより、現象が異なることを理解させる。 既習事項と関連させながらコンデンサーを理解させる。一様な電場内の電場と電位差との関係などから、コンデンサーの極板に蓄えられる電荷量が電位差に比例することが導かれることを示し、電気容量を理解させる。極板間に挿入された誘電体のはたらき、および誘電率、比誘電率を理解させる。 | ・電気現象に興味・関心を持つ。 ・クーロン力を用いて静電気現象が説明できる。 ・電場と電位を用いて静電気現象を説明できる。 ・コンデンサーという電気素子に興味・関心を持つ。 ・コンデンサーの働きを理解し、いろいろな物理量の計算ができる。 |
| | 第4編 電気と磁気 第2章 電流 1.オームの法則 2.直流回路 第3章 電流と磁場 1.磁場 2.電流のつくる磁場 3.電流が磁場から受ける力 4.ローレンツ力 | 導体を流れる電流の大きさが電圧に比例することを示し、電気抵抗を理解させる。さらに、導体の抵抗率は、温度上昇に伴い大きくなることを理解させる。キルヒホッフの法則をきちんと理解させる。起電力・端子電圧・電池の内部抵抗の意味を理解させ、それらにある関係式をしっかりと把握させる。 磁場について定義をし、さらに磁力線の説明へと進めていく。直線電流、円形電流、ソレノイドがつくる磁場について、各場合の電流・磁場の関係を理解させる。電流が磁場から受ける力について理解させ、その力の向きをしっかりと把握させる。平行電流が及ぼしあう力についてその向きと大きさを理解させる。運動する荷電粒子が磁場から受ける力(ローレンツ力)について説明する。 | ・電流回路に興味・関心を持つ。複雑な電流回路をキルヒホッフの法則を用いて解くことができる。 ・磁気現象と電磁誘導という現象に興味・関心を持つ。 ・電流が磁場から受ける力を計算できる。 ・モーターが回転する原理を説明できる。 |
| 2 学期 | 第4編 電気と磁気 第4章 電磁誘導と電磁波 1.電磁誘導の法則 2.自己誘導と相互誘導 3.交流の発生 4.交流回路 5.電磁波 | 磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について理解させる。その際、ファラデーの電磁誘導の法則、エネルギーの移り変わり、磁場によるローレンツ力など、異なる面から考えさせるようにする。コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じ、その大きさは電流の変化の速さに比例することを理解させる。 交流の発生のおきと、交流電圧(の瞬時値)が $V = V_0 \sin \omega t$ で表されること、交流の実効値についても、その意味をしっかりと理解させる。抵抗に直列につないだコイルやコンデンサーに加わる電圧の位相について理解させる。コイルやコンデンサーのリアクタンスを理解させる。交流回路のインピーダンスについても扱う。 電磁波の発生のおきについて理解させる。電磁波は周波数の大小により、そのふるまいが異なり、名称も異なることを説明する。 | ・電磁誘導によって発生する、誘導起電力を計算することができる。 ・発電の原理を説明できる。 ・交流現象に興味・関心を持つ。 ・抵抗・コイル・コンデンサーに流れる交流電流と交流電圧の関係を理解し、計算できる。 ・交流回路を解くことができる。 ・電磁波の発生原理を理解し、説明できる。 |
| | 第5編 原子 第1章 電子と光 1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子 | 陰極線の性質を理解させる。トムソンの実験とミリカンの実験とから、電子の比電荷等がどのように得られたかを理解させる。光電効果の現象が定性的にも定量的にも説明できることを学習させる。X線の発生、X線回折、コンプトン効果を理解させる。光子についてもエネルギー保存、運動量保存の式が理解できるようにする。光の粒子性と対比しながら、電子に波動性があることを理解させる。 ボーアの素原子模型について説明し、素原子のエネルギー準位を理解させる。放射線には、おもにα線、β線、γ線の3種類があること、それらの本体が何であるかを説明する。崩壊により原子核の質量数や原子番号がどのように変化するかを理解させる。半減期について理解させる。原子核反応を理解させる。 | ・J.J.トムソンの実験のおきが理解できている。 ・X線の発生機構が理解できている。 ・X線回折におけるブラッグの条件について理解している。 ・物質波のド・ブロイ波長を求めることができる。 ・α線、β線、γ線の正体や、α崩壊、β崩壊のおきを理解できている。 ・核反応を定量的に説明できる。 ・核反応を式に表すことができる。 |
| 3 学期 | | 大学入試共通テスト、大学2次試験演習(総合問題) | ・基本的な概念が理解できている。公式を正確に使える。 ・具体的な計算処理が適切にできる。 |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査、課題考査 考査課題時の課題 授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況) <p>などから総合的に評価する</p> |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 生物 | 学年・類型 | 3年理系 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|----|----|----|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 改訂版 生物（数研出版）

副教材等 九訂版スクエア最新図説生物、四訂版リードα生物（数研出版）、2023生物重要問題集—生物基礎・生物、共通テスト対策実力完成直前演習生物

学習目標

- 生物や生命現象について、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
- 生物体内の化学変化や生命現象を支えるタンパク質や核酸などの働きについて、生命の共通原理を理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようにする。
- 生物の分類と系統および進化の過程とそのしくみについて、生物界の多様性と歴史の変遷を理解させ、分類と進化についての見方や考え方を身に付けさせる。
- 個体群の構造と維持、生物群集と生態系について、生物を集団のレベルでとらえ、生物と環境とのかかわりや、自然界における生物集団についての見方や考え方を身に付けさせる。
- 生物についての発展的、継続的な課題を設定し、生物学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付けさせる。

授業の進め方,学習方法

- 教科書だけでなく各社の図説や参考図書を使用し、生物の共通性と多様性を理解させる。
- 入試問題を通して、生物学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付けさせる。
- 実験・観察を通して、授業で学んだことをより広く深く理解させる。
- 76回生は「第4章4. 動物の配偶子形成と受精」から始める。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|---|--|---|
| 1 学期 | 第4章 生殖と発生 4.動物の配偶子形成と受精 5.初期発生の過程 6.細胞の分化と形態形成 7.植物の配偶子形成と発生 第5章 動物の反応と行動 1.ニューロンとその興奮 2.刺激の受容 3.情報の統合 4.刺激への反応 5.動物の行動 | <ul style="list-style-type: none"> 動物の配偶子形成とウニ・カエルの初期発生の過程 発生のしくみの古典的研究とモルフオゲンによる形態形成。 植物の配偶子形成と重複受精 ニューロンの基本構造と興奮の伝導・伝達 視覚器・聴覚器を中心とした受容器のしくみ 筋肉を中心とした効果器のしくみ 動物の行動とニューロンとの関連 | <関心・意欲・態度> 授業や実験に臨む学習の態度や提出物の取り組みで評価する。 <科学的思考力> プタの眼球観察に関する実験レポートの考察内容で評価する。 <技能・表現力> 上記の実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績、実験レポートで判断する。 |
| | 第6章 環境と植物の反応 1.植物の生活と環境応答 2.発芽の調節 3.成長の調節 4.環境の変化に対応する応答 5.花芽形成・結実の調節 第7章 生物群集と生態系 1.個体群 2.個体群内の個体間の関係 3.異種個体間の関係 4.生物群集 5.生態系における物質生産 | <ul style="list-style-type: none"> 植物の環境応答と植物ホルモン 植物の発芽・成長の調節 花芽形成の調節 水分の調節、病害や傷害に対する応答 個体群や生物群集の特徴 生態系における物質生産とバイオーム 生物多様性の意義 | <関心・意欲・態度> 授業や実験に臨む学習の態度や提出物の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 物質生産に関する計算問題の考察内容で評価する。 <技能・表現力> 標識採捕法の実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績、実験レポートで判断する。 |
| 2 学期 | 第8章 生命の起源と進化 1.生命の起源と初期の生物の変遷 2.多細胞生物の変遷 3.進化のしくみ 第9章 生物の系統 1.生物の系統 2.生物の多様性 | <ul style="list-style-type: none"> 生命の起源と生物の変遷 進化のしくみ 生物の系統と分類 | <関心・意欲・態度> 授業や実験に臨む学習の態度や提出物の取り組みで評価する。 <科学的思考力> 生物の変遷に関する読み物に関するレポートの考察内容で評価する。 <技能・表現力> 化石の観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 <知識・理解> 定期テストの成績、実験レポートで判断する。 |
| | 生物・生物基礎の二次試験対策演習及び生物の共通テスト対策演習 | 生物・生物基礎の二次試験対策として、近年の入試傾向をおさえながら、問題集や自作プリントを使用しながら演習を行う。 | <関心・意欲・態度> 授業や実験に臨む学習の態度で評価する。 <科学的思考力> 入試問題を通して、考察問題への理解度で評価する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |
| 3 学期 | 生物・生物基礎の二次試験対策演習及び生物の共通テスト対策演習 | 共通テスト前：共通テスト対策として、模擬試験で実践力をつける。 共通テスト後：生物・生物基礎の二次試験対策として、各自の志望大学に合わせた過去問および模擬試験で実践力をつける。 | <関心・意欲・態度> 授業や実験に臨む学習の態度で評価する。 <科学的思考力> 入試問題を通して、考察問題への理解度で評価する。 <知識・理解> 定期テストの成績で判断する。 |

成績評価方法

4回の定期考査(中間考査・期末考査)の素点を主資料にして、校内実力考査、授業への取り組み、観察・実験に対する態度、実験レポートの評価、課題の提出状況等を総合的に判断して成績を算出する。

| | | | | | | | | | |
|-------------|---|----|----|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 | 学年・類型 | 3年全員 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
| 使用教科書 | なし | | | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>②生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む態度や、互いに協力する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。</p> | | | | | | | | |
| 授業の進め方、学習方法 | 生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。 | | | | | | | | |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|--|--|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1・2・3学期 | <p>授業最初に男子：2400m、女子：2000mの持久走を行う。(この持久走の取り組みについても評価に入れます。)</p> <p>I テニス・卓球・ソフトボール・バドミントン・ハンドボール (5種目から選択)</p> <p>II テニス・卓球・サッカー・バレーボール・バスケットボール (5種目から選択)</p> <p>III 持久走</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●体づくり運動 ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●バレーボール アタック・レシーブ(アンダーハンド・オーバーハンド) 三段攻撃・競技運営 など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム) サービス(ロング・ショート) フライト(ハイクリア・ドロップスマッシュ・ドライブなど) 簡易ゲーム・ゲーム など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、 5対5のミニゲーム、ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●長距離走(42.195kmを8回で走破) | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれの特徴を理解し、言語技術を活用して説明することができるか。 ・競技方法やルールについて理解しているか。 ・各種目それぞれにおける基本的な技能を習得しているか。 ・それらの技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 ・実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | <p>学習活動(次の①～④の4観点で評価)、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)、欠出席状況を総合的に評価します。</p> <p>①各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。</p> <p>②的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。</p> <p>③能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができたか。</p> <p>④それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができたか。</p> <p>I～IIIのそれぞれの種目ごとに①～④の4観点で総合的に評価します。</p> |
|--------|---|

| | | | | | | | | | |
|----|-----|----|--------------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 外国語 | 英語 | コミュニケーション英語Ⅲ | 学年・類型 | 3年全員 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 4単位 |
|----|-----|----|--------------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 FLEX English CommunicationⅢ(増進堂)

副教材等 アップリフト英語長文読解2, Cutting Edge Orange, アップリフト英語長文読解3, Hyper Listening, 英単語ターゲット1900

学習目標
 1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えたり発表したりする能力を伸ばす。

授業の進め方・学習方法
 教材の内容に応じて、精読、速読を使い分け、長いまとまりのある英文を理解する。トピックに沿って文章を要約する力を身につけたり、そのトピックについての自分の意見をまとめる練習をする。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|--|--|---|
| 1 学期 | Lesson1 Mr. Price Meets Jakuchu Lesson2 Cleaning the Oceans Lesson3 The Value of Practice Lesson4 In Defense of Zoos 『アップリフト2』15, 16, 18, 19 | 長い間埋もれていた伊藤若冲の作品が、どのような経緯で我々に知られるようになったのかを読み取る。 海洋ゴミから生じる問題、ポイヤン・スラットがその問題に取り組むに至った経緯を理解する。 エリクソンの実験の目的、内容、結果を読み取り、練習の重要性を理解する。 動物園を巡る論争に関する筆者の考えを読み解く。 | ①各レッスンのトピックに興味・関心を持ち、内容を理解しようとしているか。 ②適切な位置に区切りを入れながら、適切な音量で本文を音読できるか。 ③文章の論理展開を示すディスコースマーカーを的確に把握し、本文の内容を正確に理解できる。 ④本文の内容についての英問、日本語での質問に的確に答えることができるか。 |
| | Lesson5 Facing Your Marshmallow Problem Lesson6 Eco-friendly Farming of Bluefin Tuna 『アップリフト2』20 『Cutting Edge』1, 2, 3 『アップリフト3』1, 2, 3, 4 | 「マシュマロ・テスト」は何を調査したものか、結果からどのようなことが分かったかを読み取る。 グラフも参考にし、マグロ漁業の現状を知り、近年の漁獲量がどのように変化しているかを理解する。 長いまとまりのある英文をパラグラフ毎に意味を取りながら読み進める。 | ①各レッスンのトピックに興味・関心を持ち、内容を理解しようとしているか。 ②適切な位置に区切りを入れながら、適切な音量で本文を音読できるか。 ③文章の論理展開を示すディスコースマーカーを的確に把握し、本文の内容を正確に理解できる。 ④本文の内容についての英問、日本語での質問に的確に答えることができるか。 |
| 2 学期 | Lesson7 Lessons from History of Easter Island Lesson8 Life Without Magic 『Cutting Edge』4, 5, 6, 7 『アップリフト3』5, 6, 7, 8 | イースター島がたどった歴史と現代の地球の共通点を読み取り、イースター島の歴史から何を学ばなければならないかを考える。 ハリーポッターが世界中で大人気となった経緯を読み取り、ジョアンが物語を通して伝えようとしているメッセージを考える。 長いまとまりのある英文をパラグラフ毎に意味を取りながら読み進める。 | ①各レッスンのトピックに興味・関心を持ち、内容を理解しようとしているか。 ②適切な位置に区切りを入れながら、適切な音量で本文を音読できるか。 ③文章の論理展開を示すディスコースマーカーを的確に把握し、本文の内容を正確に理解できる。 ④本文の内容についての英問、日本語での質問に的確に答えることができるか。 |
| | Lesson9 A Brief History Humans Lesson10 Happiness Is a Journey 『Cutting Edge』8, 9, 10, 11 『アップリフト3』9, 10, 11, 12 | 人間は他の動物とちがいで、どういった協力をするすることができるのかを読み取り、また動物が住む世界と人間が住む世界の違いを理解する。 eメールから、私たちの幸せの基準が変化することを理解し、Happiness is a journey, not a destination.に込められたメールのメッセージを考える。 長いまとまりのある英文をパラグラフ毎に意味を取りながら読み進める。 | ①各レッスンのトピックに興味・関心を持ち、内容を理解しようとしているか。 ②適切な位置に区切りを入れながら、適切な音量で本文を音読できるか。 ③文章の論理展開を示すディスコースマーカーを的確に把握し、本文の内容を正確に理解できる。 ④本文の内容についての英問、日本語での質問に的確に答えることができるか。 |
| 3 学期 | 『Cutting Edge』12, 13, 14 『アップリフト3』13, 14, 15 | 長いまとまりのある英文をパラグラフ毎に意味を取りながら読み進める。 | ①各レッスンのトピックに興味・関心を持ち、内容を理解しようとしているか。 ②適切な位置に区切りを入れながら、適切な音量で本文を音読できるか。 ③文章の論理展開を示すディスコースマーカーを的確に把握し、本文の内容を正確に理解できる。 ④本文の内容についての英問、日本語での質問に的確に答えることができるか。 |

成績評価方法
 ・定期テスト(実力考査も含む)での得点。
 ・小テストでの得点。
 ・長期休業後の課題提出状況。
 ・日常の授業への参加状況、リスニング力向上への取り組み、予習・復習など家庭学習の状況も考慮する。

| | | | | | | | | | |
|----|-----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|
| 教科 | 外国語 | 英語 | 英語表現Ⅱ | 学年・類型 | 3年全員 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|-----|----|-------|-------|------|------|------|------|-----|

使用教科書 Vision Quest English Expression II Ace(啓林館)

副教材等 入試必携 英作文 Write to the Point(数研出版), The Reflex643(桐原書店)

学習目標 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る姿勢を育てるとともに、自分の意思や考え、起こった事実を、論理的に考えながら適切な英語を用いて表現する能力を養う。

授業の進め方,学習方法 1,2年で培った語彙、文法、語法の知識をベースに、モデルになる英文を正しく理解し、それらを踏まえたうえで、多種多様な日本語の意味をどのように英語で表せるかを学ぶ。また、様々なシチュエーションで自分の考えを伝え、また相手の意見を踏まえながら、さらにコミュニケーションを深めていくようなペアワークも適宜行う。

学 習 計 画

| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|------|---|---|--|
| 1 学期 | 8関係詞 文法Unit9 9時間の表現 文法Unit10 10数字の表現 文法Unit11 | 関係詞、時間表現、数字表現などの使い方を例文をもとに確認し、様々な日本語表現を英語で表す際の方法を学習する。また、正しい英語の基礎となる文法についても復習を重ねる。 | ①語彙、文法、語法の知識を正しく持ち合わせているか。 ②日本語が表す意味を考えず、逐語的に英語に置き換えようとしていないか。 ③平易な英語を適切に使い、シンプルでわかりやすい英語表現で表すことができるか。 |
| | 11仮定・条件の基本 文法Unit12 12仮定・条件の応用 文法Unit13 13比較の基本 文法Unit14 14比較の応用 文法Unit15 自由英作文 | 仮定法表現、比較表現などの使い方を例文をもとに確認し、様々な日本語表現を英語で表す際の方法を学習する。また、正しい英語の基礎となる文法についても復習を重ねる。 | ①語彙、文法、語法の知識を正しく持ち合わせているか。 ②日本語が表す意味を考えず、逐語的に英語に置き換えようとしていないか。 ③平易な英語を適切に使い、シンプルでわかりやすい英語表現で表すことができるか。 |
| | 15譲歩の表現 文法Unit16 16重要表現(1) 文法Unit17 17重要表現(2) 文法Unit18 18Aは・・・だ 文法Unit19 自由英作文 文法Unit20 | 譲歩表現、重要表現などの使い方を例文をもとに確認し、様々な日本語表現を英語で表す際の方法を学習する。また、正しい英語の基礎となる文法についても復習を重ねる。 | ①語彙、文法、語法の知識を正しく持ち合わせているか。 ②日本語が表す意味を考えず、逐語的に英語に置き換えようとしていないか。 ③平易な英語を適切に使い、シンプルでわかりやすい英語表現で表すことができるか。 |
| | 18Aは・・・だ 17重要表現(2) 16重要表現(1) 15譲歩の表現 14比較の応用 自由英作文 | 様々な重要構文の使い方を例文をもとに確認し、様々な日本語表現を英語で表す際の方法を学習する。これまでに学習した幅広い知識をもとに、幅広い状況、様々な条件で自分の意見を表す演習を行う。 | ①語彙、文法、語法の知識を正しく持ち合わせているか。 ②日本語が表す意味を考えず、逐語的に英語に置き換えようとしていないか。 ③平易な英語を適切に使い、シンプルでわかりやすい英語表現で表すことができるか。 ④自分の意見を論理的に述べているか。 |
| 3 学期 | 自由英作文 入試英作文 | 必要に応じ添削指導などを通じてそれぞれの目指す大学への準備を手助けする。 | |

成績評価方法

- ・定期考査
- ・実力課題、長期休業中の課題
- ・授業内での小テスト
- ・授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況)
- ・学期末のスピーキングテスト

以上から総合的に評価する

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|-------|-------|------|------|------|-----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術Ⅱ | 学年・類型 | 3年選択者 | 履修形態 | 選択履修 | 授業時数 | 2単位 |
|----|----|----|-----|-------|-------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|----------|
| 使用教科書 | 光村図書 美術2 |
| 副教材等 | なし |

| | |
|-------------|--|
| 学習目標 | 美術の幅広い創造活動な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 |
| 授業の進め方,学習方法 | A表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現 作品制作を通じ、材料・用具の特性への理解を深め、創意工夫し感性豊かに表現する。 B鑑賞 課題や作品毎の鑑賞やワークシート作成を通して、美術への関心・意欲を促すとともに、鑑賞の能力を培い、作品への理解を深める。 |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|---|---|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1学期 | オリエンテーション 鑑賞 絵画・デザイン 「水による演出」 | 学習の意義、内容、心構え 水を題材にした作品を鑑賞し、作品や作家の個性、表現の可能性や工夫について学ぶ。四つ切りサイズのケント紙をパネルに水張りをし、「水」をテーマに描く。 描画材料は自由。流れや揺らぎ、反射や透明感などみずによる表現の効果を生かして情景を豊かに表現する。他者の作品を鑑賞し、主題と表現の工夫について考察する。 | 【知識・技能】 水が作りだす印象や風景のイメージなどを捉え、画材の表現方法を創意工夫して表す。 【思考・判断・表現】 風景のイメージなどを基に、水による表現の効果を考え、構想を練る。水を効果的に表すための構図や形体などを、描画材料の特性を生かしながら工夫し描く。 【主体的に学習に取り組む態度】 水による表現の効果を生かして風景画に表す学習活動に、主体的に取り組む。作品を見つめ、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。 |
| | 絵画 鉛筆デッサン 「静物または石膏像」 鑑賞 | 鉛筆の削り方やデッサンに必要な用具や準備について学ぶ。4Bから4Hまでの削った鉛筆で、様々なタッチを描きながら、グレースケール(階調表現)を作成し、鉛筆の可能性を学ぶ。基本的な構図や形、タッチや質感の表現を学ぶ。 木材や縄、ティッシュボックスやペットボトル、人物の石膏像などをモチーフに鉛筆デッサンをする。モチーフは個々の受験内容に合わせてその都度設定する。 自他の作品を鑑賞し、合評会をする。 | 【知識・技能】 線や明暗による表現の効果、全体のバランスやイメージなどを捉え、鉛筆の特性を生かし表現方法を工夫して表す。 【思考・判断・表現】 モチーフから感じ取った印象などを基に、線のタッチや陰影の描き方の効果を生かし、質感や立体感など、創造的に表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 線や明暗による表現効果を考え、工夫して表す学習活動に、主体的に取り組む。 自他の作品を鑑賞し、作品のよさを見つけ、今後の制作に生かそうとしている。 |
| 2学期 | 夏休みの課題 「アート作品にふれる」 デザイン 「色彩構成」 | 夏休みの期間、美術館やギャラリーへ行き、アート作品を鑑賞し、展示場所・作品の内容・感想などをワークシートを記入し提出する。 練習課題の後、テーマに沿ってケント紙に言語表現であらわしがたい感情を形や色でデザインで表現する。配色カードを参考にアクリルガッシュで着色。 色の3属性、システムについて復習。明度、彩度、色相の違いや色の遠近法、視認性、誘目性、色のもつ象徴や言葉のイメージなどの効果について学ぶ。 | 【知識・技能】 色のもつ意味や配色の効果に気づき、美しさを感じ取ることができる。 【思考・判断・表現】 配色効果や色の役割を踏まえ、効果的に使い自分の表現に生かしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日頃感覚的に扱ってきた「色」について改めて役割や配色効果について注目し、表現に生かしている。 |
| | デザイン プロダクトデザイン 「食器に描く」 | 人間が目的に合わせて快適な生活を送るために必要なデザインの役割について学ぶ。身近なプロダクトデザインについて分析してみる。 生活を見つめ、主題を生成し、食器の機能や構造、素材に配慮したデザインを構想をする。アイデアスケッチや模型を基に、専用のペンで陶器の食器に描く。 完成後、実際に使用してみて、感想を述べる。制作過程で工夫したところを伝え合い、他の生徒の作品を鑑賞し、他者の作品の思いや表現の工夫を感じ取る。 | 【知識・技能】 主題を具体化するために必要な知識を習得し、素材の特性や配色の効果などを考慮しながら、工夫して制作している。 【思考・判断・表現】 生活を見つめ、身の回りにある製品の機能やデザインから作りたい製品の主題を発想し、構想を深め、機能と美しさについて工夫し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 プロダクトデザイナーの仕事内容、必要な知識や技能について関心を持ち、製品制作のプロセスに取り組んでいる。 |
| 3学期 | 絵画 「花を描く」 デザイン 「花の絵からキーホルダーをつくる」 | 国内外で活躍する作家の花の絵を鑑賞し、多様な表現方法を学ぶ。 普段見慣れている実物の花をじっくり観察し、鉛筆または絵具で描く。 花の絵を基に、プラバンでキーホルダーを制作する。 着色は色鉛筆またはアクリルガッシュでする。 | 【知識・技能】 表現することの自由と多様性を楽しみながら、工夫して描画している。 【思考・判断・表現】 花のイメージや花に対する思いを大切にして、独自の世界観を表す工夫をしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 花のもつ美しさと魅力に気づき、自らの表現に生かそうとしている。 |

| | |
|--------|--|
| 成績評価方法 | 【知識・技能】 造形の要素や特徴、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。意図に応じて材料や用具を準備し、特性を生かして活用する。 表現方法を創意工夫し、主題を追究して創造的に表現している。 【思考・判断・表現】 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や創造などから主題を生成している。 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 |
|--------|--|

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|-------|--------|------|------|------|-----|
| 教科 | 探究 | 科目 | 人文数理探究 | 学年・類型 | 3年特色類型 | 履修形態 | 全員履修 | 授業時数 | 1単位 |
|----|----|----|--------|-------|--------|------|------|------|-----|

| | |
|-------|----|
| 使用教科書 | なし |
| 副教材等 | なし |

| | |
|-------------|---|
| 学習目標 | 探究の成果について ①要旨をまとめることができる。 ②論理的に日本語で表現し、論文作成やポスター作製のルールに沿った記述ができる。 ③英語で表現することができる。 ④わかりやすい英語で専門知識のない人にも伝わるようにプレゼンすることができる。 |
| 授業の進め方,学習方法 | 基礎知識についての講義、ワークシートの完成、ロールプレイ、原稿作成と添削、音声指導、個別指導、発表など |

| 学 習 計 画 | | | |
|---------|-------------------------------------|--|--|
| 学 期 | 単 元 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
| 1学期 | 英語ポスターの発表準備 | 英語ポスターのフォーマットを理解している 英語でアブストラクトを書くことができる 現状分析や研究背景について英語で説明できる 研究手法について英語で説明できる 結果と考察について英語で説明できる 展望について英語で説明できる | 提出物、作成物、発表をルーブリックに基づき、個人・グループごとに評価する。 |
| | 英語プレゼンテーションの発表準備 | 英語のプレゼンで気を付けるべきことを理解している 聴衆に配慮し、伝えるべき情報を取捨選択できる 聴衆を集中力を保つことができる わかりやすい英語で伝えることができる わかりやすい英語で伝えることができるスライドを作成することができる ストーリー化し巧みな構成を計画できる | 原稿の質、スライドの質、パフォーマンスについて、ルーブリックに基づき、個人・グループごとに評価する。 |
| 2学期 | 論文集作成 ポスター(日・英)の最終版の作成 論文執筆作業 | 論文のフォーマットと引用ルールの理解 グラフや表のルール 記述の仕方 | 再現実験が可能な正確で詳細な記述ができて いるかについてルーブリックで評価する。 |
| | 論文校正作業 | 出稿 | 記述に重複がなく、必要な情報が含まれているか についてルーブリックで評価する。 |
| 3学期 | | 校正作業 | |

| | |
|--------|---------------------|
| 成績評価方法 | 本校独自のルーブリックにより評価する。 |
|--------|---------------------|